

高法^{理由書}草案第一編第七章
以下及第二編第三編

第四卷
第一

寫本
高法草案第一編第
七章以下及第二編第
三編
第七百十八條
第七百二十二條
完

第五號
第二架
第一

司法省
第五二號
寄贈圖書文庫

XB400
S 84
1 d



七
一
早

中九百二十四条第二項、修訂子法定其
以予之、
記、
正、
後、

司法部記録文庫
第七百十八號

商法草案第一編第七章以下及第二編第三編

自八九九
至九七七

明
六
節

XB400
S 24
1 d

第二節 船荷證書

第八百九十九條 船荷證書ハ船長カ運送ノ為
ニ受取リタル運送品ニ對シテ發ス可キ受取
證券ニシテ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 船名及ニ國籍

第二 船長ノ氏名

第三 船舶賃借人ノ氏名及ニ積荷受取人ノ

指示

第四 荷積港及ニ到達港

第五 貨物ノ種類、數量及ニ各箇運送品ノ頁
數、記號、番號、外包ノ方法

第六 運送貨ニ付テノ約定

第七 日附

第八 交付シタル船荷證書ノ數

船荷證書ハ求ニ應シ幾通ニテモ之ヲ交付ス可シ其中ノ一通ニハ船長ノ手許ニ備置ク為メ貸借人署名捺印シ他ノ各通ニハ船長署名捺印スルヲ要ス

船荷證書ハ或人ニ宛テ又ハ指圖式若クハ無記名式ニテ之ヲ發スルヲ得

海上運送ニ用ユルコトヲ以テ船荷證書ハ

陸地運送ニ係ルコトヲ以テ

同一ノ義ヲ有スルモノニシテ

由ニ十ニ條並ニ專ラ其例ヲ襲ヒタル他ノ法

律ニ於テハ積スレタル運送品ニ對スル船長

ノ受取證ト稱ス獨國及英國ノ法律ニ於テハ

假受取證ト眞ノ船荷證書トヲ區別ス獨國商

法第六百四十四條「ボツ」高法論第四卷第

四章第二號然レハ酷ニ論スレハ船荷證書ハ

純然タル船長ノ受取證ニ非スシテ併セテ船

舶賃借人ノ陳述ヲ含有シ賃借人ハ其内志通

ニ署名シ之ヲ船長ニ交付ス可キナリ其他船荷

証書ハ船舶賃借契約ノ補欠匡正ニ充ツ是ノ

故ニ船荷証書ハ實際雙方ニ効カアル運送契

約ノ具ニシテ其賃借ニ係ルト箇々ノ積荷ニ

關スルトハ之ヲ問ハス故ニ雙方署名アルヲ

要ス然レハ實際ニ於テハ一方ノ署名ヲ以テ
足レリトス但タ船長ノ署名スル者ヲ多トス
是ニ由テ之ヲ觀レハ船荷証書ハ重ニ運送品
ヲ引渡スルニ係リ船長ノ義務ヲ判ス可キノ
契約書タリ故ニ本業ハ佛國法律ノ義ニ概ク
タリ其假受取證ヲ交付シ其所持人ヲシテ船
荷証書ヲ受ルノ權アラシムルヲ禁ス
ルニ非ス唯法律ニ於テ特ニ之ヲ定ムルヲ要
セス何トナレハ是レ唯タ主トシテ事務上ノ
用アルニ止マリ權利上ニ關係セサレハナリ
而シテ此假受取證ハ船荷証書ノ領收ノ成返
却スルキヲ論ヲ俟タス

本中集

各國ノ法律ニ於テハ必ク船荷証書ニ記載ス
ルハキ箇條ヲ定メタリ佛國商法第二百八十一
條白國千八百七十九年ノ商法第四十條伊國
商法第三百八十九條和蘭商法第五百七條西
國商法第七百九十九條獨國商法第六百四十
五條其理由如何トナレハ船荷証書ハ為替ノ
如キ無限ノ證據物ニ非スト雖モ反對證アル
ニ至ル迄充分ノ證據トナレハナリ是レ其箇
條ヲ契約者雙方ノ隨意ニ放任スル能ハサレ
所以ナリ本業ニ規定スル箇條ハ自餘ノ法律
ニ於ルト毫モ異ナルヲナシ一般ニハ船長亦
タ積荷受取人トシテ之ヲ行ハルコトナリ

トト爲ルヲ得ヘク此時、方リテハ船長到達
地。至リ自ラ荷物ヲ賣拂ヒ之ヲ買主ニ引渡
ス可キモノナリ獨國商法第六百四十六條而
シテ船荷証書ハ指圖式若クハ無記名式ニテ
振出ス下リ得ルカ故、受取人ノ氏名ハ之ヲ
掲載スルヲ須ヒスナリ獨國商法論第二卷
第六百八十三號佛國商法第二百八十一條獨
國商法第六百四十六條
船荷証書ニシテ法式ヲ欠クハ全ク無効ニ
屬スヘキニ非スト雖モ其^{推測}忠料的ノ證據力ヲ
失ヒ爭論ノ成ハ他ノ證據物ヲ以テ之ニ充テ
サルヲ得ズナリ獨國商法論第二卷第六百

八十二號及第六百九十九號
船荷証書ニ於テモ印刷シタル式紙ヲ用ヒ法
律上ノ要件ノ外契約者雙方ノ權利義務ニ關
スル細條ヲ之ニ掲クルト多シ
船荷証書ハ為替ノ如ク需要ニ從ヒ之ヲ數通
ニ振出シ又種々ノ國語ヲ以テ記スル下リ得
其數ト語トハ貸借人ノ需要ニ從ヒ定ムヘシ
今ヤ船荷証書ハ航海中其積荷ヲ處分^{賣拂}等
ヲ云スルノ具トナルノ用アルカ故ニ貸借人
ハ自己ノ需用ノ為メニ幾通ヲモ要求スル下
ヲ得サルヘカラズ獨國商法第六百四十四條
和蘭商法第五百十條佛國商法第二百八十二

條ニ依レハ四通ヲ交付スヘキモトス故ニ
之ヨリ多ク要求シ得ヘキマ疑ナシ
佛國商法第二百八十四條ハ數通ノ船荷証書
互ニ相違スル時何レノ狀ヲ以テ確實ノモ
トナスヘキマニ就テ規則ヲ定ム白國千八百
七十九年ノ商法第四十三條亦タ同シ然レモ
些細ノ相違ハ論スルニ足ラス此些細ノ相違
ト偽造トノ場合ヲ除キ論スレハ百般ノ證ヲ
取捨スル裁判官ノ自由ヲ牽束セサルヲ以テ
甚タ近世法律ノ精神ニ適スルモトスヘシ
故ニ此ノ如キ爭論ハ證據採用ノ普通原則ニ
從テ判スヘク以テ一方ノ署名シタル證據ヲ

必ス之レニ對シ採用スヘキモト豫定スル
イヲ得ス必スヤ實際ノ事情ニ據ラサルヘカ
ラサルナリ若夫レ錯誤若クハ過失ヲ以テ口
實トセシ歟若シ其現在セサルニ於テハ之ヲ
證明スルノ責アルト勿論ナリ今右等ノ理由
アルヲ以テ本章ニハ此問題ニ係ル規則ヲ省
キタリ

第九百條 船荷證書ハ荷積ヲ終リタル後二十四時内ニ之ヲ發スルヲ要ス
積込ニタル貨物ニ付テノ關稅受取證書及ニ關稅明細書ハ右同一ノ期間ニ貸借人之ヲ船長ニ交付スルヲ要ス

此規則ハ佛國商法第二百八十二條白國千八百七十九年ノ商法第四十一條伊國商法第三百九十九條獨國商法第六百四十四條ニモ掲ル所ニシテ雙方ノ利益ヲ計ルニ出ツ何トナレハ貸借人ハ船荷證書ヲ更ニ他ニ送付シ若クハ荷物ノ保險ヲ受ル^{付テ}船長ハ航海ヲ始ムルトニ就テ共ニ無用ノ滯緩ニ陷ヒルヘカラサ

レハナリ夫レ船長ハ航海毎ニ必ズ其積荷ニ
關スル書類ヲ船中へ備置クヘキ義務ヲ有ス
ルカ故ニ之ヲケレハ出航スルトテ得サルモ
ノナリ

第九百一條 規定ニ從ヒテ發シタル般荷證書
ノ旨趣ハ當事者相互ノ間及ニ當事者ト保險者
トノ間ニ於テ完全ナル證據ト爲ルモトス然
レニ反對ノ證據ハ之ヲ擧クルトテ得
船長ハ外包ノ儘ニ又ハ閉蓋シタル容器ノ儘ニ
受取リタル運送品ノ種類及ニ數量ニ付テハ明
約アルニ非サレハ責任ヲ負フニ無シ但運送品
ヲ受取人ニ引渡ス時ニ於テ其外部ニ毀損喪失
又ハ毀損ニ付テノ責任ハ第四百九十三條ニ揭
ケタル情況ニ因ルノ外尚ホ火災、盜難其他過失
ニ出ラサル事故ニ因リテ消滅ス
過失ニ付テノ責任ハ契約ヲ以テ之ヲ免カル

ル下ヲ得ズ
船長ノ積荷ニ付テ責任アル下ハ既ニ第八百六十條ニ定メタリ本條ハ唯々其責任ノ範圍ヲ細定スルモノニシテ其範圍ハ船荷証書ノ文面ニ從テ判ス故、船長ハ船荷証書中ニ記載シアル所ニ毫モ相違セサル荷物ヲ荷受取人ニ引渡サ、ルヲ得ス何トナレハ船荷証書ハ船長此ノ如クシテ其荷物ヲ運送ノ為メニ受取リタル下ヲ證スルモノナレハナリ以テ船荷証書ハ此意ニ於テ契約者ノ間ニ充分ノ證據トナル何トナレハ該証書ハ契約者ノ協議ニ由テ成リタルモノナレハナリ此協議ニ

違反スルハ即チ自己ノ意ニ背馳スル者ナリ
カ故ニ雙方ニ許サ、ル所ナリ
船長ノ責任ハ實際ニ於テ解釋及實用スル所ヨリ一層ノ嚴ヲ加フル下ヲ法律上ニ示スヲ常トス船長ノ義務ハ運送ノ為メニ受取リタル荷物ヲ破損ナク減殺ナク荷受取人ニ引渡スニ過キサル下勿論ニシテ專ラ荷物ノ重量箇數、含量(含量ニ就テハ唯々之ヲ採取シ或ハ之ヲ惡クスル下ニ係ル)ノ外部ニ關スル者ニシテ船長若シ船荷証書ニ從ヒ、¹第¹號ト記シタル赤葡萄酒一樽ヲ受取リタル時ハ必ス此ノ如キ記號アル樽ヲ引渡スヘシ他ノ記

號アリ或ハ含容ヲ異ニスル者ヲ引渡スヲ得
ス然レ氏荷受取人ニ於テ葡萄酒ヲ容レス水
ヲ容レタル樽ナルトテ發見シタルン歟船長
ノ責任果シテ如何ニ判決スヘキヤ茲ニハ荷
物差立人ノ錯誤若クハ詐偽ニ出テ既ニ積入
ノ前水ヲ盛タル歟又ハ運送中船長若クハ船
員其酒ヲ盜ミ水ヲ以テ之ニ代ヘタル歟ノ兩
様アルヘシ而シテ後者ノ場合ニ於テハ其責
任船長ニ在リ何トナレハ船長ハ荷物積入レ
ノ時ヨリ之ヲ引渡ス迄荷物ニ就テ責任アル
ハナリ前者ノ場合ニ於テハ船長固ヨリ其責
任ニ任セス何トナレハ差立人ノ詐偽若クハ錯

誤ノ責ヲ船長ニ負ハシムルノ理ナケレハナ
リ是ヲ以テ此全問題ハ何人ノ何時ニ變換シ
タルヤノ證據ニ依リテ判スヘシ然レ氏此證
據ハ頗ル擧クルニ難キト多ク且運送中ニ於
ル不正ノ習業ヲ咎メスシテ止ムヘカラサル
カ故ニ此ニ關シ確キタル例規ヲ設ケ此ノ如
キ困難ナル事實上ニ於ル證明ノ必要ヲ小
スルハ至當トスル所ナリ

佛國及獨國ノ法律(佛國商法第二百八十一條
第二百八十三條第三百十條獨國商法第六百
五十三條乃至第六百五十七條)ニ依レハ船長
ハ荷物ニ關シ其船荷証書ニ從ヒ無限ノ責任

ヲ負擔ス但々(含容、度量不分明)或ハ(不承諾等
ノ如キ語ヲ以テ船荷証書ニ相當ノ記注ヲ為
シ其責任ヲ拒絕シタル成ヲ別トスルノニ然
レ氏閉塞シタル樽中ノ流動物ニ付テハ何ノ
場合ヲ問ハズ其責ニ任セサルヲ得サルモノ
トス

此主義ニ依レハ船荷証書ヲ以テ法式的ノ嚴
平タル契約ト視サルヘカラス然レ氏船長ノ
責任ハ唯々荷物ヲ受取リタルヨリ生ズル者
ニシテ(ア)羅馬民法第三百十四章ニ所謂
「レクパプトム」即チ船長ハ唯運送契約ニ從ヒ
運送ノ為メニ受取タル荷物ヲ引渡スノ義務

アルニ過キス此ノ如キ嚴酷ナル主義ハ運送
交通上ノ實際ニ悖ルモノナリ故ニ船荷証書
ノ式紙ニハ幾多ノ制限ヲ記載シ以テ船長ノ
責任ヲシテ重要ノ程度ニ止マラシムルト多
ク此制限ハ船長ヲシテ其當ヲ失フタル法律
ノ牽束ヲ免レシメントスルニ在リ是レ法律
ヲ改良シテ實際ニ適合セシメサルヘカクサ
ル所以ナリ
英國ノ法律(ア)ボット高法論第二百七十八葉
ニハ荷物ノ品質ハ勿論時宜ニ依リ數量ヲモ
船長ノ知ラサル所ト為シ之ヲシテ其責任ニ
當ラシムヘカラサルモトス今ヤ開放ノ貨

物ト閉鎖ノ貨物トハ之ヲ區別セサルヘカラ
ス開收ノ貨物ニ就テハ船荷証書ニ從ヒ船長
無限ノ責任任ス然レ氏反對證ヲ擧ルヲ許シ
此反對ヤ獨リ積入レタル貨物ト引渡シタル
貨物トノ異同ニ關ス而シテ開放ノ貨物トハ
材木、鐵、麥、米其他開放ノ儘積入ル、貨物ヲ云
フモノニシテ箱、布包、樽其他包裝シタル貨
物ハ之ト異ナリ船長ハ此ノ如キ包裝貨物ヲ
一々開放シ其含量品質及數量ヲ調査セスシ
テ其積入レラル、儘之ヲ受取ルカ故ニ之ニ
就テ船長ニ責任ヲ負ハシムルノ道ナシ但タ
船長其責任ヲ負擔スル旨ヲ明約シタル時ヲ

別トスルモノニシテ此場合、於テハ豫メ特
別ノ特別ノ調査ヲ為シ且其價ヲ明細ニ定メ
サルヘカラス船長若シ特ニ此ノ如キ義務ヲ
引受ケス其受取リタル箱等ニ破損ナク之ヲ
引渡シタル時ハ其義務ヲ盡シタルモノニシ
テ運賃ヲ受取ルノ權アリ然レ氏箱等ノ外部
ヲ破損シタルト又ハ開破シタルト一見ヲ以
テ明白ナルニ於テハ其貨物積入ノ時ト狀体
ヲ異ニスルヲ以テ船長其責任ニ當ラサルヘ
カラス

本條第一段ノ規則ハ特別制限細條ナキハト
雖モ船荷証書ノ文面ニ對シ反對證ヲ擧ルヲ

新スモノミシテ英國法律ハ勿論其一部分ハ
獨國法律ニモ掲クル所ナリ(英國千八百五十
五年八月四日ノ法律第三條ウヰクトリア即
位十八年十九年ノ法律第百一十章レウヰ
萬國商法論第百六十葉獨國商法第六百五
十五條商法雜誌第二十一卷第三百九十八葉
以下)佛國ニ於テモ其商法第二百八十三條ヲ
適用スルニ右ノ如ク制限シタル意ヲ以テス
(ベダリード第二卷第六百七十七號第六百九
十六號
本章ニ從ヘハ閉鎖シタル貨物ニ係ル船長ノ
責任ハ唯其外部破損シタル内若クハ明ニ責

任ヲ負擔シタル内ニ限り存スルモノナリ獨
國及佛國ノ法律ニ依レハ別ノ制限ヲ加フル
ノ明約アルニ非サレハ此點ニ就テモ船長ノ
責任無限トス(獨國商法第六百五十六條ベダ
リード)商法論第二卷第六百九十七號然リト
雖モ佛國ニ於テモ此ニ船長ヨリノ反對證ヲ
容レ且品質ニ係ル責任ハ必要トセズ獨國ニ
テモ受取リタル貨物ト引渡シタル貨物ト相
違ナキトテ證スレハ船長其責ヲ免ル、トテ
得ヘントノ説アリ(商法雜誌第二十一卷第四
百九葉)是ノ故ニ理論ニ拘泥シタル他國ノ法
律ニ比スレハ本章ノ規則ハ實際法律上ノ習

用及今日船舶交通上ノ慣習ニ調和スルモノト謂フヘシ

佛國商法第三百十條ニ閉鎖シタル容器ニ盛リタル流動物ニ係リ例外ヲ立ツルノ規則ハ本案ニ採用セズ何トナレハ他國ノ法律多クハ之ヲ揭ケス且此ノ如キ物件ニ係ル責任ヲ他ノ物件ニ係ルモノト異ニスルノ充分ナル理由アラサレハナリ蓋シ樽若クハ其類ノ容器全ク或ハ殆ント空虚ニシテ到着シタル時ニ當テハ船長又ハ船員ノ為ニ出ヅルモノトノ思料ヲ下スヲ得ヘシ然レモ近今ニ至テハ此ノ如キ思料ヲ下スナク就テ甚々吝ナルニ

至リ今其樽暴風等ニ由テ空虚トナリ若クハ其製ノ粗惡ナルカ為ニ漏出セシトノ反對證ヲ擧クルヲ船長ニ許サ、ルハ其正ヲ失ナラズ明ナリ加之是レ佛國法律學ニ於テモ是認スル所ニシテ同國商法第三百十條ノ該規則ハ實際ニ適用セサルマ必セリ「バダリード」商法論第二卷第八百二十一號乃至第八百二十三號「ブーレ、バキ」商法論第二卷第四百九十八號又流動物ノ損失ハ必スシモ其樽ヲ空虚ニスルノ一途ニ止マラス其品質粗惡トナリ又ハ水分ノ混スル等ノナリシトセ又故ニ其空虚ニナリタル場合ノミテ例外トスルハ

其當ニ非サルナリ
船長ハ運送人ノ種類ニ屬スルモノナレハ其
責任ノ範圍ハ概シテ普通ノ運送人(本案第五
百五十二條佛國商法第百十三條)ト同一ニ論
スヘシト雖モ本案ハ自餘ノ法律ト齋シテ海
上運送ノ責任ヲ減縮シタリ佛國ニ於テ其商
法第三百十條ニ從ヒ論スヘキカ如ク唯其過
失ニ就テ船長其罪アリ偶然ノ損失ニ之ヲ及
ホサス(バ)タリ(ド)商法論第二卷第八百十七
號(ア)ロ(セ)「商法論第五卷第九百十五號
「(レ)「(ハ)「(チ)「商法論第二卷第十七章英國
於テハ船長ハ全ク運送人ノ如キ責任ヲ負擔

スヘシトノ原則行ハルト雖モ申合規則ヲ以
テ大ニ例外ヲ立テタリ其例外ハ即チ高價ナ
ル貨物ノ火災若クハ強盜ニ遇フタル成ノ責
任是レナリ又過失ナクシテ喪失シタル場合
ニ於テ其責任ヲ負フモノ噸ニ付八磅ヲ超過
セ(チ)八百五十四年ノ商船條例ウキクトリ
「即位十七年十八年ノ法律第百四章第五百
三條第五百六條及即位二十五年二十六年ノ
法律第六十三章第五十四條(ア)ボツト商法論
第三百四十一條第二百六十一條獨國商法第
六百五十九條ニ依レハ亦船長ハ不可抗力ニ
起因セル事ノ外ハ一切ノ損失ニ就テ其責ヲ

リト為スト雖モ運送契約中、特別ノ制限ヲ
設ケ其責ヲ免ル、トヲ得ヘシ以テ船荷証書
式紙中、偶然ノ損失、辱ル責ヲ免ル、トヲ
記スルハ抑モ一般ノ習例ナリ(アボト)高法論
第二百六十一葉)是レ今日普通ノ原則ト視サ
ルハカラサルカ故ニ本案ニモ之ヲ採用シタ
リ然レモ船長及船員ハ如何ナル場合ニ於テ
モ(貸借契約書若クハ船荷証書ヲ以テスルモ)
自己ノ過失ニ起因シタル責ヲ免ル、ヲ得ス
トノ規則ヲ加ヘタリ(獨國高法第六百五十九
條)

第九百二條 船長ハ到達港ニ於テ運送貨附帶
費用海損并ニ立替金ノ辨償及ニ受取証書ヲ受
ケテ船荷証書所持人ニ運送品ヲ引渡スノ義務
アリ若シ二人以上ノ船荷証書所持人カ申出ヲ
為ス内ハ運送品ヲ公ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判
所ノ命令ニ依リテ之ヲ他人ニ寄託スルトシテ要
ス

船荷証書ハ殆ント法式的ノ義務ヲ生ス何ト
ナレハ其証書中ニ記シタル受取人ニ非サレ
ハ貨物ヲ引渡ストヲ得サレハナリ若シ其証
書指圖式又ハ無記名式ナル内ハ其所持人ハ
皆荷物ノ引渡シヲ要求スルトヲ得何トナレ

ハ白地裏書ヲ以テ讓渡ス₁得レハナリ是
ノ故ニ船荷証書ノ所持人ニ荷物受取ノ權ヲ
得セシムルヲ例トス獨國商法第六百四十七
條₁ベダリ₁ド商法論第二卷第六百八十七號
荷受取人ハ其荷ノ運送貨其他船長ノ要求金
ヲ支拂フニ非サレハ之レヲ請求スルヲ得ス
トスルハ第三百九十九條ニ揭クル普通ノ規
則ニ適合スル者ナリ獨國商法第六百十五條
其如何ナル場合ニ於テ荷物ヲ受取ル₁ナク
シテ運送貨ヲ支拂フヘキヤハ次款ニ細定ス
今ヤ荷受取人ハ右ノ支拂ノ外荷物ヲ受取リ
タルヲ證スヘキ₁勿論ニシテ是船荷証書ニ

附記シ之ヲ船長ニ還付スルヲ通例トス獨國
商法第六百五十二條

運送人ノ要求ニ應セサルカ若クハ荷受取人
ヲ見出スノ道ナキニ如何ナル處置ヲ為スハ
キヤハ既ニ第五百十四條ニ規定セリ該條ハ
海上運送ニモ適用スヘキモ₁ニシテ即チ留
置權ノ實踐ニ係ル然レモ荷物ハ船中ニ留置
ク₁得ス何トナレハ為₁ニ運送契約ニ於
テ荷物ヲ陸揚スヘシトスルノ義務ヲ盡サ
ルニ至リ又船中ニテハ荷物ヲ調査認定スル
₁難ク且破滅ニ至ル₁容易ナルニ止マラス
其船舶出航ノ妨害トナレハナリ佛國商法第

三百六條「ベダリ」ト商法論第二卷第八百九

號

船荷証書ハ幾通ヲモ交付スルトテ得ルヲ以
テ貸借人ノ之ヲ數人ニ送付スルトナシトモ
ス為メニ該証書ノ所持人數人アリテ荷物ヲ
受取ラントテ申出ツルトアリ是レ其數人ト
貸借人トノ間ニ於ケル爭論ヲ醸スハ言テ候
タサルカ故ニ船長ハ此爭論ニ加入ス可ラス
唯其荷物ヲ安全ノ保管ニ付スルトテ經畫ス
ヘシ者ニ運送貨等ノ支拂ヲ受ケサル内ハ其
貨物ノ一部分ヲ賣却シ自ラテ償フトテ得獨
國商法第六百四十八條

數通ノ船荷証書皆返還シタルニ非サレハ其
荷物ハ之ヲ引渡ス可ラス獨國商法第六百六
十一條

第三節 運送貨

第九百三條 運送貨ノ額ハ契約又ハ時價ニ依
リテ之ヲ定ム其契約上ノ額ハ船舶貸借契約
書又ハ船荷證書ヲ以テ之ヲ證明スルヲ要ス
單獨海損及ヒ附帶費用ハ契約又ハ商慣習ニ依
リテノニ之ヲ計算スルヲ得

運送貨トハ船ノ賃借料ナリト雖モ尋常ノ賃
借料ト異ニシテ併セテ航海ノ費用殊ニ船員
ノ給料及給養ノ報酬ヲ含包ス然レモ荷物運
送ノ為メニ支拂フヘキ報酬ハ獨リ運送貨ニ
止マラス多クハ船挽、破冰、投錨等ノ為メニ
ル航海上ノ別途費用ハ之ヲ

海損
ノ
要
ス

一ノ下ノ船及積荷ヲ以テ共同シテ負擔
ス本條ハ多數ノ法律ニ依リ別ニ契約若クハ
商習慣ニ依リ右ノ費用ヲ支拂フヲ以テ義務
トスルニ非サレハ獨リ運送費ヲ以テ運送ノ
報酬トスルノ原則ヲ定メタリ
佛國商法第二百八十六條ニ於テハ獨リ運送
契約ヲ以テ運送貨額ノ標準トシ然レモ契約
上特別ニ其定メナキハ荷物積入ノ地ニ其
時習用セラレタル運送貨ヲ支拂フハキハ勿
論ニシテ獨國商法第六百二十條ニ於テ
商法論第二卷第六百五十五號第七百十三號
「アホット」商法論第三百五十一號且必要トス

ル所ナリ何トナレハ數多ノ蒸氣船或ハ其一
部ハ鐵道ヲ用ユルカ如キ種々ノ連續シタル
運送業ニ於テハ豫メ運送貨ヲ定ムル能ハサ
ルト多クハナリ蓋シ此ノ如キ場合ニ於テ
ハ差立人或ハ荷受取人ハ其運送貨ノ算定ニ
至ルヲ待タサルヘカラス然レモ習用ノ運送
貨額ニ超ヘテ支拂フノ義務ナシ
運送貨ノ外ニ前ニ掲ケタル別途ノ費用ヲ積
荷ニ負擔セシムルノ習慣ナキニ於テハ航海
ノ費用ハ臨時タルト定常タルヲ論セス總テ
船舶所有者ノ負擔スル所ナリ例ヘハ水先等
内料、港稅、噸稅、燈臺稅、檢疫稅等ノ如キ皆ナ是

レナリ獨國商法第六百二十二條若夫レ損失
ニシテ共同ヲ以テ負擔スヘキモノニ就テハ
海損ニ係ル次款ニ之ヲ論ス
運送貨及他ノ附帶費用ノ額ハ必ス船荷証書
又ハ船舶貸賃借契約書ニ明テ示ササルヘカ
ラス然リト雖モ最初ヨリ運送貨ノ總額ヲ記
スルハ必要ニ非ス後日即チ荷物引渡ノ際始
テ之ヲ記載スルトテ得ヘシ唯タ此ニ就テ守
ルヘキハ契約或ハ其地ノ習慣是レナリ

第九百四條 船長ハ現實ノ積量ニ超エタル積
量ヲ明告シタル成ハ此ニ因リテ貸借人ニ加ヘ
タル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ負ヒ且割合ニ應
ジテ運送貨ヲ減ス可キモノトス但其明告カ官
ノ測度證書ト符合シ又ハ錯誤ヨリ出テタル差
カ四十分ノ一ヨリ多カラサル成ハ此限ニ在ラ
ス

此規則ハ佛國商法第二百八十九條第二百九
十條(ベダリード)商法論第二卷第七百四十三
號(白國)千八百七十九年商法第七十三條第
七十四條伊國商法第三百九十三條西國商法
第七百四十六條第七百四十七條ニ掲ケ夫レ

積荷ノ積量及重量ハ船舶ノ積載力ニ應セサルヘカラサルカ故ニ其積載力ヲ明細ニ知リ以テ荷物ノ分量ヲ精シク算定スルハ賃借人ノ利益トスル所ナルマ明ナリ而シテ船長ノ不當ナル明告里シテ其錯誤ニ出テタルト詐偽ニ出タルトハ之ヲ論セス何レノ場合ヲ問ハス船長ハ其明告ノ責ニ任セサルヲ得ス然レ氏其錯誤ノ些細ナルモハ之ヲ尤ムヘカラス且官ノ測度證ニ錯誤アルモ船長ヲシテ其責ニ任セシムルヲ得ス

積載力(即チ商品幾^キチ積量ヲ載スルノ力)ハ噸數即チ立方内容ト同一ナラサルト別ニ解説

ヲ要セズ總ヲ總噸數中ヨリ扣除スハキモノハ房室、機關室及其他ノ荷物積入ニ供用スル能ハサル場所是レナリ故ニ各船ノ實積載力ハ實際上ノ事ニ於テ航海營業者ノ判定ニ依ルヘシ殊ニ荷物ノ品質重量若クハ面積ニ就テハ最モ然^ルリ以テ疑問ノ生スルハ航海營業ノ鑑定人ヲシテ判セシムヘキナリ

之反シ實ノ積載力ニシテ船長ノ明告シタルモノヨリ大ナル時ハ賃借人ヲシテ相當ニ運送貨ヲ増加シ荷物ヲ積加フルトヲ得ルノ權ヲ得セシムヘシ若シ賃借人ニシテ此權利ヲ用ユルヲ欲セサル時ハ船長ノ其船ノ空虛

ナル部分ヲ他ニ貸スルヲ拒止スヘカラス然
レ氏船長ハ之カ為メニ前ノ貸借人ニ損失ヲ
被ラシム可ラサルナリトナリトナリト商法論第
二卷第七百四十九號

第九百五條 船舶貸借ノ場合ニ於テハ貸借人
ハ積荷ノ全部ヲ引渡サ、ル氏ト雖モ運送貨ノ
全額ヲ支拂フノ義務アリ又餘分ノ積荷ニ付テ
ハ割合ニ應シテ運送貨ノ増額ヲ支拂フテ要
ス

船長ハ貸借人ノ承諾ヲ得テ他ノ運送品ヲ以テ
積荷ノ不足ヲ補充スルテ得テ其補充ヨリ生マ
ル運送貨ハ貸借人ニ歸ス

本條ノ規則ハ既ニ第八百九十七條中ニ説明
シタリ他ノ諸國法律ニモ此規則アリ(佛國商
法第二百八十七條第二百八十八條白國千八
百七十九年ノ商法第七十二條第七十五條伊

國商法第三百九十五條第三百九十六條西國
商法第七百五十九條獨國商法第五百七十九
條「アボット」商法論第三百五十一條

第九百六條 各箇ノ積荷ハ航海ヲ始ムル前ニ
在テハ貸借人運送貨ノ半額ト取戻ニ因リテ生
スル費用トヲ支拂ヒテ之ヲ取戻ス1ヲ得航海
ヲ始メタル後ニ在テハ運送貨ノ全額ト取戻ニ
因リテ生スル費用トヲ支拂フ1ヲ要ス但其取
戻カ船長ノ過失ニ因ルキハ第九百八條ノ規定
ニ從フ

貸借契約ノ場合ニ於テ既ニ其荷積ヲ始メ
タルキハ第八百九十四條ニ從ヒ運送貨ノ全
額ヲ支拂フニ非サレハ貸借人其契約ヲ解ク
1ヲ得ス各箇ノ積荷ニ在テハ貸借人ニ一層
大ナル權利ヲ與フ何トナレハ船長他ノ運送

品ヲ以テ之ニ代ユルヲ易ク且個々ノ解約ノ
為メニ航海ニ妨害アルヲナキヲ例トスレハ
ナリ故ニ各箇ノ積荷ニ於テハ航海ヲ始メサ
ル限リハ何時タリトモ運送貨ノ半額ヲ支拂
フテ其契約ヲ解クトヲ得ヘシ(佛國商法第
二百九十一條第百九十三條白國千八百七十
九年ノ商法第八十七條第八十九條伊國商法
第三百九十八條第四百條獨國商法第五百八
十一條)然レモ是レ船長ニ過失ナキモ限ル
例ハ船舶航海ニ堪ヘサル如キナキモ
如シ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ船長
ニ其責アリ貸借人ハ賠償ナクモテ解約スル

ヲ得レハナリ(第九百八條)

第九百七條 船長ノ承諾ヲ得ヌ又ハ虚偽ノ明
告ヲ為シテ船舶ニ積込ミタル運送品ハ船長之
ヲ陸揚シ又ハ之ニ最高ノ運送賃ヲ付スルヲ
得又其運送品カ船舶若クハ他ノ物ヲ危険ナラ
シムル成ハ之ヲ海中ニ投スルヲ得
此規則ハ佛國商法第二百九十二條獨國商法
第五百六十五條白國千八百七十九年ノ商法
第八十八條伊國商法第三百九十九條西國商
法第七百六十一條ニ掲ク此權利ハ竊ニ積入
レタル荷物ノ船若クハ他ノ荷物ノ為メニ危
険ナル成或ハ之カ為ノ船ノ積載力ニ超ユル
成ニ必要ナリ海中ニ投スルハ出港ノ後始

テ其荷物ヲ發見シ其危險ノ迫マルニ或ハ陸揚スルノ機會ナキニ事情ニ因リ必要トスル
トアルヘシ

然レ凡船長ハ其權ヲ恣ニ用ヒ故ラニ其荷主ニ損害ヲ被ラシムルトヲ得ス故ニ船長ハ可及的其荷主ノ利益ヲ計畫セサルヘカラス即チ其荷物ヲ陸揚シタル時ハ相當ニ保存スルノ方法ヲ立テ容易ニ破滅スルノ憂ナカラシムヘシ
（イ） 商法論第二卷第七百五十八號第七百六十號殊ニ海中ニ投スルハ實ニ危險ノ迫ルニ限ルハ勿論トス且其竊ニ荷物ヲ積入レタル者或ハ勾卒ニ出テ惡意ヲ以

テセサリシト否ト其貨物發火或ハ爆發ノ危険アルト否ト又禁制品ナルト否トニ因テ其差アリ

第九百八條 船舶カ航海ノ用ニ副ヘサルモ又
 ハ契約ニ掲ケタル國籍ヲ有セス若クハ國籍ヲ
 失ヒタルモハ貨借人ハ契約ヲ解除スルヲ得
 又船長ハ運送貨ノ請求權ヲ失ヒ且貨借人ニ被
 フラシメタル總テノ損害ヲ賠償スルヲ要ス
 本條ニハ船長其責ニ當ルヘキカ為メニ(第九
 百六條)貨借人賠償ナクシテ契約ヲ解クヲ得
 可キ各場合ヲ掲ク此ニ屬スルモハ殊ニ船
 舶ノ航海不能力ニシテ船長ニ其緩慢ノ罪ア
 ルト否トハ之ヲ問ハス(佛國商法第二百九十
 七條白國千八百七十九年、商法第九十五條
 和蘭商法第四百七十九條獨國商法第五百六

十條第六百三十條(西國商法第七百四十八條)特ニ掲ケタル國籍ハ戰爭ノ節沒收ノ憂アリ或ハ關稅特權等ノ為メ賃借人ニ在リテ甚タ緊要ナル者ナリ故ニ國籍ハ船舶資格ノ一ニシテ其由來ヲ證スルモノナレハ賃借人ノ意ニ反シテ變更ス可ラサルナリ船舶ノ航海不能耐用カタルト實ニ證明セラレタルニ假令ニ官ノ證書ニ於テ反對ノ認定アルニト雖モ契約ヲ解クノ權アリトスルハ諸國ノ法律ニ掲ル所ナリ其國籍ニ就テモ之ト同一ノ判斷ヲ下スヘシ本條ノ規則ハ船舶所有者ノ輕率ノ為メニ賃

借人及積荷ノ被ル危險或ハ損失ヲ防クヲ以テ目的トス蓋シ其船舶ニ保險アリ沈溺ノ為メニ船舶所有者一ニ損失ヲ蒙ルトナキカ為メニ航海不能カノモノヲ以テ出航スルト往々ニシテアリ且其船舶避難港ニ至リ修復スルヲ得ルモ賃借人ハ為メニ時日ヲ徒費シ恐クハ商業作用ノ機會ヲ失フトナシトセラルナリ

第九百九條 船舶カ航海中ニ生シタル破損ノ
為メ修繕ヲ要スルニハ貸借人ハ運送貨ノ全額
ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除スルヲ得
若シ船舶ヲ相當ノ期間ニ修繕スルヲ得サル
ニハ貸借人ハ船長カ他ノ船舶ヲ以テ之ニ換ヘ
サルニ限リ其地マテノ運送貨ヲ支拂ヒテ契
約ヲ解除スルヲ得

本條ハ船舶航海ニ堪ユヘキ状態ヲ以テ出航
シ途中暴風雨或ハ他ノ變故ニ罹リ破損シ以
テ修繕セサルヲ得サルニ至ルニハ適用
スヘキ者ニシテ此ノ如キ機會ハ暴風若クハ
他ノ天災ノ為メニ瞬時ニ生スルヲ示トセ

ス當事者ハ皆此損害ヲ自ラ知ラサルハカラ
ス船長ニ於テ其取結タル契約ヲ實踐スル期
望アレハ貨借人隨意ニ荷物ヲ取戻スルヲ得
ス若シ其修復抑之ヲ行ナラズ或ハ其地又
ハ時ノ事情ニ因テ修復スルヲ得ス且船長他
ノ船舶ヲ以テ之ニ充ル能ハサル時ハ即チ此
時ヨリ航海不能力ト成リタルモト視做シ
貨借人ハ以テ契約ヲ解クノ權ヲ得ヘシ然リ
ト雖モ船長ハ其地マテ契約ヲ實踐シタルモ
ノナレハ貨借人ハ其地迄ノ運送貨ヲ支拂ハ
サルヲ得ス(佛國高法第二百九十六條白國千
八百七十九年ノ高法第九十四條伊國高法第

四百三條和蘭高法第四百七十八條獨國高法

第六百四十條

諸國ノ法律ニ於テモ修復ノ終ルヲ待ツヘキ
期限ヲ定メス故ニ相當ナル期限内ニ於テス
ルヲ要ス即チ航海ノ目的全ク空キニ歸スル
如キ非常ノ時日ヲ費スヘカラス故ニ直ニ修
復ニ着手シ斷ヘス之ヲ行ナレバ速ニ成功セシ
ムヘキモノナリ

其他運送貨ヲ支拂フニ一ヶ月幾何ト云フ如
キ期日ヲ限リテ定メタル時ハ修復ヲ待ツノ
間一モ支拂フヲ要セサルトテ掲ル法律アリ
(獨國高法第六百四十條)

第九百十條 第八百九十三條ノ場合ニ於テハ
滯泊ノ費用ハ共同海損ノ原則ニ從ヒテ之ヲ定

ム

此規則ハ佛國商法第三百條獨國商法第六百
三十七條白國千八百七十九年ノ商法第百三
條仰國商法第五百九條第九項ニ掲ク此法ヲ
設クルハ不可抗力ニ起因シタル^海破泊ハ避ク
ヘカラスル變故ニシテ之レヨリ出ツル損失
ハ契約者ノ一方ノミニ負擔セシム可ラスト
ノ理由ニ出ツ佛國法律ニテハ船員ノ給料及
給養費ノミヲ以テ共擔失ト為ス獨法ニ於テ
ハ破泊ニ係ル百般ノ費用ヲ共擔スルモノト

マ後者ハ即ケ其當ヲ得タルモノ、如シ故ニ
本案ニ之ヲ採用ス獨國商法第七百八條第四
項ニハ此費用ヲ列擧シ水先案内料港稅等ノ
如キ其港出入ノ費用亦此ニ屬ス若シ夫レ其
委由ニ至テハ共同海損ノ原則ニ從フヘシ

第九百十一條 航海前、航海中又ハ到達港ニ於
テ貸借人又ハ船長ノ惹起シタル遲延ノ費用ハ
其遲延ヲ惹起シタル者之ヲ負擔シ且此ニ因リ
テ生シタル損害ヲ賠償スルヲ要ス
契約者一方ノ過失ニ出ヅルノ滯留ハ避クハ
カラサル航海ノ變故ニ屬セズ故ニ之ヲ起因
シタル者ハ其責ニ當ラサルヘカラス佛國商
法第二百九十四條第二百九十五條白國千八
百七十九年ノ商法第八十二條第八十三條伊
國商法第四百一一條第四百二條和蘭商法第四
百七十五條第四百七十六條「バダリ」ド商法
論第二卷第七百六十一號以下然レモ貸借人

ハ超過碇泊期間ノ為メ、特別・支拂ヲ要セズ何トナレハ之カ為メ、ハ別ニ超過碇泊料ヲ拂フタレハナリ貸借人ニ就テハ税則犯ノ為メ税官ヨリ船舶ノ出港ヲ止メ或ハ戰時禁制品ノ為メ、其船舶捕獲セラレ他港ニ移送セラレタル場合亦タ此ニ屬ス

第九百十二條 貸借人ノ過失、物ノ性質又ハ事變ニ因リテ喪失シタル運送品、第八百七十二條ニ從ヒテ賣却シタル運送品又ハ共同ノ危険ヲ救フ為メ、海中ニ投シタル運送品ニ付テハ運送貨ノ全額ヲ支拂フテ要ス然レモ海中ニ投シタル場合ニ於テハ其運送貨ハ其擔辦濟ノ義務ヲ負擔ス

此規則ハ佛國商法第二百九十八條、第三百一十條、第三百十條、白國千八百七十九年ノ商法第七十七條、第九十三條、第九十六條、伊國商法第四百五條、第四百八條、第四百十七條、西國商法第七百八十五條、第七百八十六條、第七百八十八條

九條和蘭商法第四百八十一條
獨國商法第六百十九條
獨國商法第六百十八條
獨國商法第六百十七條
獨國商法第六百十六條
獨國商法第六百十五條
獨國商法第六百十四條
獨國商法第六百十三條
獨國商法第六百十二條
獨國商法第六百十一條
獨國商法第六百十條
獨國商法第六百九條
獨國商法第六百八條
獨國商法第六百七條
獨國商法第六百六條
獨國商法第六百五條
獨國商法第六百四條
獨國商法第六百三條
獨國商法第六百二條
獨國商法第六百一條

ノ負擔スル所タルヘキハ疑ヒナシ何トナレ
ハ運送中ト雖モ荷物ノ偶然危險ハ貸借人ノ
負擔スヘキ所ナレハナリ貨物ノ損失トハ主
トシテ喪失若クハ價額ノ減殺ヲ云フ然レモ
其積量及重量等ノ減少亦損失ノ一タリ航海
中貨物腐敗シ若クハ混亂シ液物漏失蒸發酸
敗シタル等ノ如シ貸借人ノ過失ハ第一ニ包
裝ノ不充分ナルト其他荷物ノ損亡ヲ起因シ
得ヘキ錯誤例ヘハ他種ノ物品ト混スレハ破
滅スヘキ貨物ヲ之ト混シテ包裝シタル等是
レナリ其他貨物ハ自然ノ品質ニ因テ損失ヲ
被ムルトアリ例ヘハ硝子ハ破レ易ク麥酒ハ

酸敗シ易ク油ハ蒸發シ易キ等ノ如シ偶然ノ
損失トハ船長若クハ船員ノ過失ニ出テサル
百般ノ損失ヲ云フ(第九百一條)若夫レ獨リ船
舶ニ係リ航海ノ續行ヲ妨クル變故ハ此ニ屬
セズ次條ヲ以テ論スヘキナリ
船舶ノ為メ第八百七十二條ニ據リ賣却シタ
ル貨物ニ就テ運送貨全額ヲ支拂フヘキナリ
所有者別ニ其代價ノ辨償ヲ受クルヨリ生
シテ夫レ無事ニ貨物ヲ引渡シタルニ於テハ應
ニ支拂フヘキノ運送貨ヲ此賣却ノ代價ニ支
拂フスルヲ得ストセハ債借人ハ船舶ノ損失
ヲ以テ不正ノ利益ヲ占ムルモノナリ共同ノ

危難ヲ免ル、為メニ~~被~~棄シタル荷物ニ係テ
モ右ノ理由ヲ用ユヘシ何トナレハ此損失ニ
就テ債借人別ニ賠償ヲ受ケ即チ全關係者共
同シテ此損失ヲ負擔スレハナリ今ヤ積荷ハ
共同損失ノ割前ニ充テラル、モノナレハ運送
貨ニモ此割前ヲ負擔セシムルヲ至當ナリ若
夫レ其委曲ニ涉リテハ海損ニ關スル原則ヲ
以テ補フヘキナリ

第九百十三條 船舶ノ難破・坐礁・膠沙又ハ掠奪ニ因
 リテ失ヒタル運送品ニ付テハ運送債ヲ支拂フテヲ要セ
 又且別段ノ契約アルニ非サレハ豫メ支拂ヒタル運送
 債ハ之ヲ償還スルテヲ要ス

救助セラレ又ハ贖戻セタル運送品ニ付テハ之ヲ到達港ニ運送
 セサル内ハ船舶ノ難破・坐礁・膠沙又ハ掠奪ノ地ニ在ルマテハ運送債ヲ
 支拂フテヲ要ス然レモ船舶及ヒ運送債ノ贖戻ノ為メニ共擔辦濟ノ義務ヲ負擔ス

前條ハ唯タ積荷ノ損失ニ就テ論シタルニ本

條ハ難破其他ノ海上變故殊ニ海賊或ハ敵ノ

奪掠ニ起因スル船舶ノ損失ニ關スルモノニ

シテ此場合ニ於テ積荷モ併セテ損失スルテ

アリ又否ラサルテアリ是ニ於テ運送債ハ如

同 六 首

何トノ問題アリ積荷併テ損失シタラン歟其
損失ノ生シタル時マテノ運送貨モ支拂フヲ
要セス加之前拂ノ運送貨アレハ亦之ヲ償還
セシム貸貸借契約ノ物件滅盡シタルカ為メ
其契約消滅スルモ其時マテ借債ハ支拂ハ
サルヲ得ストスル通常ノ貸貸借契約ノ原則
ニ背馳スル者ニシテ此背馳ハ運送契約ハ船
長ヲシテ某事件ヲ終ルテ即チ到達港ニ於テ
荷物ヲ引渡スノ義務アラシヨ若シ之ヲ引渡
サ、ルニ於テハ船長抑モ其契約ヲ履行セサ
リシナリト云フノ理由ニ出ル所ナリ蓋シ船
長ハ不可抗力ノ為ニ契約ノ履行ヲ妨害セラ

レタル者ナレハ為ニ賠償スルノ義務ナシト
雖モ荷物損失シタルニ於テハ遭難ノ地迄ノ
運送貨借人ノ為メ一モ利益ナキカ故ニ運
送貨ハ之ヲ要求スルヲ得ス之ヲ要スルニ貨
借人ハ獨リ荷物ノ危険ヲ負擔シ船舶所有者
ハ船舶及運送貨ノ危険ヲ負擔スルモナリ
若シ其積荷救済セラレタル時ハ右ト異ナル
モ、ニシテ貨借人ハ其遭難ノ地迄ノ運送ノ
利益ヲ得メレハ其割合ヲ以テ報酬セサル可
ラズ然レ其救済シタル荷物ハ他ノ船ニ移
シ以テ之ヲ到達港ニ運送スルナリトセズ
此場合ニ於テハ第九百九條ニ於ル如ク運送

貨金額ヲ支拂フヘシ又敵ノ為ニ奪掠セラレタル荷物後日放還セラレタル時於テモ右ニ同シ(バカリ)ト高法論第二卷第七百九十七號)總テ右等ノ場合於テ可及的荷物ヲ到達港ニ運送スルハ船長ノ義務ナルヲ以テ相當ノ運送貨ヲ以テ満足シ恣ニ荷物ヲ途中ニ放置スルヲ得サルナリ(バカリ)ト高法論第二卷第七百九十九號)

荷物ヲ船舶ト俱ニ贖戻ス費用ハ全關係者ノ為ニニズル共同費用ナルヲ以テ其關係者皆之ヲ共擔セサル可ラス即チ賃借人ハ保險積運送貨等ノ費用ヲ扣除シテ到達港於

ケル荷物ノ價額即チ純價ヲ以テ共擔シ船舶所有者ハ船舶ノ機裝費船員ノ給料等ヲ扣除シテ其船舶及運送貨ヲ以テ共擔セサルヘカラス然レモ此ニ定例ヲ立テ煩雜ナル計算及證明ヲ省略セシメシト為メ船舶及運送貨ノ半額ヲ以テ釀金スヘキモノト定メタリ(第九百三十二條)

此規則ハ佛國商法第三百二條乃至第三百四條及白國千八百七十九年ノ高法第九十七條ニモ掲ク然レモ白國該法律第九十八條ニ依レハ贖戻ノ辨償ハ必ス裁判官ノ判決ヲ以テ定ムヘキモノトス(伊國商法第四百九條乃

至第四百十一條西國商法第七百九十七條及
第七百八十八條和蘭商法第四百八十二條及
第四百八十三條獨國商法第六百三十條乃至
第六百三十二條)

第九百十四條 積受取人ヨリ運送債ヲ受取ル
トヲ得ス又運送品ヲ賣却スルモ仍ホ之ヲ得ル
ト能ハサル片ハ債借人ハ其運送債ニ付キ責任
ヲ負フ

是レ佛國商法第三百五條白國千八百七十九
年ノ商法第七十八條伊國商法第四百十二條
獨國商法第六百二十六條乃至第六百二十八
條ト掲テ積荷受取人ニシテ運送債ヲ支拂ハ
サル片ハ船長荷物ヲ賣却シ運送債ニ充ル
ヲ得又此賣却ヲ以テ運送債ニ充ルニ足ラサ
ル時ハ債借人ニ之ヲ要求スルトヲ得ヘシ債
借人ハ運送契約ヲ取結ヒタルカ爲メニ其契

約上ニ於ケル運送貨ノ債務者タリ故ニ到底
其責ヲ負擔セサルヲ得ヌ又積荷受取人其荷
物ノ破損シタルカ為メニ運送貨ノ支拂ヲ拒
ミタル時タリトモ直ニ本條ヲ適用スルヲ得
ヘシ然レモ船長ハ事情ニ因リ運送貨支拂ノ
為メニ保證ヲ立テサルヘカラス(トバダリ)ト
商法論第二卷第八百七號

第九百十五條 船長ハ運送品ヲ引渡シタル後
十四日間ハ所有者ノ破産シタルト雖モ運送債其他ノ債權
ノ為シ運送品ニ白キ優先權ヲ有ス但其貨物ノ占有カ第
三者ニ移リタル内ハ此限ニ在ラヌ

凡船長ノ運送貨ノ支拂ヲ得ル為メニ荷物ニ
就テ有スル留置權ヲ施用スルニハ第五百十
四條ニ依リ其荷物ヲ預ケ運送債ニ當ル分ヲ
賣却スルニ在リ故ニ船長ハ運送債支拂ノ前
ニ其荷物ヲ引渡スノ義務ナシ然レモ之ヲ引
渡ス場合甚タ多キハ論ヲ俟タス何トナレ
荷物ハ之ヲ陸揚シ検査ヲ受ケ又税關ノ手數
ヲ經ルヲ必要トシ且船長ハ別段ノ理由ナク

シテ其運送貨ノ支拂ニ嫌疑ヲ抱クイナケレ
ハナリ今此點ニ着眼シテ船長ノ特權ニ一層
廣キ範圍ヲ與ヘ荷物引渡ノ後ニ至ルマテ之
ヲ及ホス然レニ是レ十四日間ニ限り且荷物
ノ未タ他人ノ手ニ渡ラサル時ニ限ル後者ノ
制限ハ留置權ハ占有ヲ失フト共ニ消滅スト
スル第三百八十九條ノ汎則ヨリ生ズル者ニ
シテ唯々本條ニ於テハ船長ノ占有ニ關セズ
所有者ノ占有ヲ論スルノ差アルノミ

獨國及西國ノ法律ニ從ヘハ此特權荷物引渡
ノ後三十日間存スル者トス然レニ船長ノ引
渡ノ後直ニ運送貨ヲ得サル時荷受人荷受

取人若シ所有者ニ非サルキハ真ノ所有者即
チ荷主ニ對シ之ニ關スル權利ヲ實行スル為
メニハ十四日間ノ期限ヲ以テ充分トスルカ
如シ若夫レ十四日內ニ荷受人倒産シタル
キハ酷ニ論スレハ其荷物ノ占有ヲ失フマ
ノナリ何トナレハ荷受人ノ貨物ハ其總債
主若クハ倒産品ノ管理人ニ移ルモノナレハ
ナリ然レニ船長ノ權利ハ此ノ如キ眞理ノ推
究ノ為メニ變更ヲ受クヘカラサルマナリ
何トナレハ個々要求權ノ性質ハ倒産ノ為メ
ニ變更スヘカラサレハナリ此主義ハ他國ノ
法律ニ於テモ是認スル所ナリ(佛國商法第三

百七條第三百八條白國千八百七十九年ノ商
法第八十條第八十一條伊國商法第四百十四
條第四百十五條西國商法第七百九十七條第
七百九十八條獨國商法第六百二十四條第六
百二十六條

第九百十六條 運送貨ノ減額ハ運送品ノ喪失、
情況ノ變更又ハ其他ノ事由ノ為メ之ヲ求ム
ルヲ得ス

是レ佛國商法第三百九條白國千八百七十九
年ノ商法第七十六條伊國商法第四百十六條
獨國商法第六百十九條ニ掲クル所ニ運
送賃ハ航海ノ費用ニ充ツヘキニシテハ荷
ニ航海ヲ終リタルマ其運送賃船長ニ歸ス何
ニトナレハ荷物ノ如何ナル状態ニテ到着シ
タルニ其他如何ナル事情アルニ其航海マ賃
借人ノ需ニ出テ賃借人ノ為メ之ヲ為シタ
レハナリ例ヘハ液物航海中ニ悉皆蒸發シ或

ハ旅客若クハ獸類ノ航海中ニ死去シ或ハ戰
争ノ止ニタルカ為メニ運送貨低落シ或ハ到
達港ニ於テ運送品ノ價非常ニ下落シタルカ
為メニ其割合ニ運送貨不廉ナルニ至ル等總
テ此ノ如キ場合ニ於テモ最初ヨリ許諾シタ
ル場合ニ非サレハ後ニ運送貨ノ減額ヲ要求
スルトテ得ス總テ契約上ニ於ケル代價ノ定
メハ此原則ニ依ル何トナレハ少クモ高事ニ
在テハ價ノ過度ナルカ為メニ其低落ヲ要求
スルヲ得サレハナリ此原則マ運送貨ニ無
限的ニ適用ス然レモ運送貨ハ荷物引渡ノ時
ニ非サレハ請求スルヲ得サルカ故ニ本條ノ

例規荷物ヲ引渡シタル時ニ限り適用スヘキ
ナリ唯タ船長或ハ船員ニ罪ナクシテ引渡ヲ
為ス能ハサル時例ハ獸類航海中ニ死去シ
乙ヲ得ス之ヲ海中ニ投シタル内ノ如キハ此
例ニ非サルト勿論ナリ

第九百十七條 運送品ノ價額ノ損失ニ付キ船長其責任ヲ負ヒタル内ハ運送品ヲ船長ニ委付シテ運送貨ニ換フルヲ得

本條ノ文言ハ前條ト同一ノ原則ヨリ出ル所ニシテ船長ハ運送貨ノ減額ヲ承諾シ又荷物ヲ以テ之ニ代ヘシムルヲ須ヒス蓋シ荷物ヲ以テ運送貨ニ代ルトハ荷受人ニ於テ其運送品ノ價額運送貨ニ及ハサル内ニ之ヲ行ナハント欲スルトアルヘシ夫レ荷受人ハ運送貨ヲ支拂フヲ欲セサルカ為メニ其荷物ヲ受取ルトヲ拒ムヘカラス船長ハ受人ノ運送貨ヲ支拂ハサル時ハ其荷物ヲ賣却スル

ノ權アリト雖モ其代價運送貨ニ滿タサル時
ハ其受取人若クハ貸借人ニ對スル船長ノ要
求權ハ仍ホ存スルモノトス
然レモ船長ニシテ荷物ノ價額損失ニ付テ責
ヲ有スルモ即チ其損失ノ責船長ニ在ルモハ
受取人ノ需ニ應ジ荷物ヲ引受ケテ運送貨ニ
代ルノ義務アリ此場合ニ於テ貸借人ハ船長
ニ對シ價額ノ賠償ヲ要求スルヲ得ヘシ果
シテ之ヲ要求シタル時ハ贖戻ノ成ニ於ル如
ク(第九百十二條)運送貨中ニ之ヲ算入スルヲ
テ承諾セサル可ラズ然レモ運送貨ノ額其破
減シタル荷物ノ價額ヨリモ大ナル成ハ荷受

取人運送貨ノ支拂ヲ免ル、為メ荷物ヲ放與
スルヲアルヘシ

他國ノ法律ニモ右ノ規則アリ(佛國商法第三
百十條白國千八百七十九年ノ商法第九十七
條伊國商法第四百十七條西國商法第七百九
十條獨國商法第六百十七條)他國ノ法律ハ液
物ノ漏失シタルヲ例外ニ置クト雖モ船長ニ
過失アルノ證明ナキニ於テハ此例外ヲ許ス
ハカラサルハ既ニ第九百一條ニ於テ説明シ
タルカ如シ且右ノ例外ハ佛國法律學ニ於テ
モ是認セサル所ナリ(バダリード商法論第二
卷第八百二十一號)

第四節 旅客運送

第九百十八條 旅客運送契約：旅客ノ氏名ヲ

掲ケタル者ハ旅客ハ船長ノ承諾ナクシテ航海

ノ權利ヲ他人ニ轉付スルヲ得ス

佛國商法ハ海船ヲ以テスル旅客ノ運送ニ關

シ特ニ規則ヲ設ケストモ最近世ノ法律多ク

ハ之ヲ掲ク例ハ獨國商法第六卷白國千八

百七十九年ノ商法第四卷第四章和蘭商法第

五百二十一條乃至第五百三十三條英國千八

百五十五年八月十四日及千八百六十三年七

月十三日ノ法律(旅客條例)ニ於ケルカ如シ加

之英國ニ於テハ既ニ千八百五十四年ノ航海

條例第三百三條乃至第三百二十五條之ヲ
掲ク本條第八章第八節ニモ旅客運送ノ下ヲ
掲ケタリト雖凡之ヲ海船ニ適用シ難シ故ニ
此ニ海上旅客運送ノ一節ヲ設クルハ必要ト
ス
旅客運送契約ニハ船荷証書(第二節)ノ式ヲ用
ユル下ヲ得ス然レ凡甚々簡單ナレハ特別ニ
其式ヲ定ムルヲ須ヒス之ヲ實際ニ徹スレハ
[「]ケツケツト[」]ト(ビイ工イ)ノ式ヲ用ヒ此式ニ二様
アリ乗客ノ名ヲ記スルモノ及記セサルモノ
是レナリ遠航ノ切符ハ大概其名ヲ掲ク此ノ
如キ委曲ノ式ハ之ヲ其當事者ニ任シ法律ニ

ハ唯々其名ヲ掲ケタルニ切符ノ効力ニ付キ
生スル疑問ヲ豫シテ折ツテ必要トス夫レ名
ヲ掲ケタル乗客切符ハ其乗客ト船長トノ相
對契約ニシテ他ノ記名証券ノ如ク裏名讓渡
ヲ許ス^ル非ス且融通上ニモ裏書讓渡ノ法
ヲ立ルノ必要ナシ故ニ船長ノ承諾ヲ經スシ
テ隨意ニ契約相手人ヲ代ユルノ權利ナキモ
ノトス獨商法第六百六十五條伯海上法(千八
百七十九年八月廿一日)ノ法律以下之ニ概ヘ
第百二十條荷蘭商法第五百廿三條

第九百十九條 旅客ハ船中ノ秩序ニ係ル船長ノ指圖ニ服従スルノ義務アリ

船中ニ於テハ船長保安警察ノ權ヲ有シ船中秩序ニ係ル下ニ付テハ一切船長ノ定ムル規則ヲ守ラサルヘカラヌ又飲食時間吸烟室遊歩場所点燈時間其他旅客ノ動作ヲ規定スル下ニシテ足ラヌ又危険ノ時ニ在テハ避難ノ方法ノ如キモ一ニ船長ノ指揮ヲ守ラサルヘカラサルナリ獨商法第六百六十六條伯海上法百二十三條

第九百二十條 航海中旅客ノ賄ハ反對ノ契約
又ハ慣習アルニ非サレハ運送賃ニ包含スルモ
ノトス若シ反對ノ契約又ハ慣習アル場合ニ於
テ旅客カ食物ノ缺乏ヲ告グルモ船長ハ相當
ノ代價ニテ之ヲ給スルノ義務アリ
旅客ニ係ル規則ハ第一ニ郵便船ニ於テ習用
スル方法ニ着眼ス何トナレハ臨時借切又ハ
荷船ニ乗客アルカ如キハ甚タ希ナレハナリ
郵便船ニ於テハ運賃ノ外特別ニ賄料ヲ受ケ
サルヲ例トスルカ故ニ若シ特別ノ約束ナキ
モハ賄料ハ運賃ニ包含スルモノト視サルハ
カラス然レモ例外ニ賄料ヲ特別ニ受クル慣

習アルルルハ復タ必シモ之ヲ禁スルノ必要ナ
シ而シテ此兩個ノ特別ナル場合ニ於テ旅客
其携フル所ノ食ヲ尽クシ或ハ一時乗船ノ目
的ナリシニ危険其他ノ事由ノ為メ乗船時間
延長シタル等、如キ場合ニ於テハ船長ヲシ
テ之ニ必要ノ食物ヲ給セシムルノ義務アラ
シムルハ人理ノ然ラシムル所ナリ伊商法第
五百八十八條伯海上法第百二十一條

第九百二十一條 旅客カ乗船地又ハ航海中ニ
於テ定時ニ乗船セサル片ハ船長ハ之ヲ待ツノ
義務ナク旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フノ義務
アリ

本條ハ第九百五條ト事由ヲ異ニシテ結果ヲ
同シクシ役ニ在テハ貸貸借ノ場合ニ限ルト
雖モ貨物ト人トノ差アルカ為メ此ニハ一體
ニ全運賃支拂ノ義務ヲ旅客ニ負擔セシム何
トナレハ乙ヲ得サル事由アルニ非ス又其解
約ヲ申込ムトナク一乙ノ懈怠ヲ以テ乗船セ
サルノ罪旅客ニ在レハナリ各國亦々同シク
此法ヲ設ク獨高法第六百六十七條伊商法第

五百八十三條第一項第五百八十四條第一項
伯海上法第百二十七條荷蘭商法第百二十
二條

第九百二十二條 發航前ニ航海ヲ廢止スル場

合ニ於テハ左ノ規定ニ從フ

第一 旅客ハ解約ノ申込ヲ為シテ航海ヲ止
メタルキハ運送賃ノ半額ヲ支拂フテ要
ス

第二 旅客カ死亡、疾病其他一身ニ辱ル已ム

ヲ得サル事故若クハ不可抗力ニ因リテ航

海ヲ妨ケラレタルキハ運送賃ノ四分一ヲ

支拂フテ要ス然レモ旅客ハ尙ホ次回ニ

發航スル船舶ヲ以テ航海スルヲ擇フテ

得但同一ノ定常航路ニ由ルキニ限ル

第三 船長ノ過失ニ因リテ航海ヲ廢止シタ

ル片ハ旅客ハ既ニ支拂ヒタル運送賃ヲ取
戻スノ外尚ホ損害賠償ヲ請求スルヲ得
第四 船舶ニ係ル己ムヲ得サル事故又ハ不
可抗力ニ因リテ航海ヲ妨ケラレタル片ハ
双方ニ損害賠償ノ責ヲ生スルヲ無クシテ
契約ハ當然廢棄ニ歸ス但既ニ支拂ヒタル
運送賃ハ別段ノ契約ナキ片ハ之ヲ償還ス
ルヲ要ス

航海ヲ始ムル前ニ契約解除セラレ、ノ事由
種々アリ其事由ノ異ナルニ從ヒ權利ノ關係
ヲ定ムル亦々異ナラサルヲ得ス是レ貨物運
漕ニ於テモ然リ故ニ貨物運漕ニ係ル此點ノ

規則ト照應シ且ツ貨物ニ必要ナクシテ旅客
ニ必要ナル所ヲ斟酌シテ定ムルヲ左ノ如シ
第一 旅客解約申込ヲ為シテ契約ヲ解キタ
ル片ハ積荷ヲ航海ノ始マル前取戻シタル
片(第九百六條)ト同シク年額ノ運賃ヲ仕拂
ハサルヘカラス(獨商法第六百六十八條)伊
商法第五百八十三條第二項)伯海上法第百
二十八條)伯國海上法ニ於テハ發航ノ八日
前ニ解約ヲ申込ム片ハ運送賃ノ年額ヲ支
拂フモノトス是レ交通頻繁ナル今日ニ於
テ旅客ヲ待ツ甚ク酷ニ過ク殊ニ郵便船ニ
於テハ一港ニ八日間モ碇泊スルヲ甚ク

希シナルカ故ニ此規則ニ依ル氏ハ旅客ハ
大概前條ニ準シ全運送賃ヲ支拂フノ義務
ヲ負フニ至ルハ故ニ獨伊ノ法ニ倣ヒ法
律上豫告期限ヲ定ム

第二 旅客カ其身ニ辱ル不得己事故又ハ不
可抗力ノ為メ妨ケラレ航海ヲ止メタル
或旅客ノ運送賃ハ獨伊ノ法(獨商法第六百
六十八條)獨商法第五百八十三條第二項ニ
テ本條第一項ト同シク全額ヲ支拂フモ
ノトス然レ此場合ハ第九百二十一條及
本條第一項ニ於ルカ如ク旅客ノ懈怠又ハ
隨意ニ出テタルモニ非ス殆ント第四項

ト同一ニシテ唯々其辱ル所一身ニ止マリ

船ニ涉ラサルノ差アルノ故ニ伯法ニ倣

四分一ト為ス(伯海上法第二百零八條後

段)然レ其旅客カ船長ニ損害ヲ蒙ムラシメ

サルノ方法ヲ以テ四分一ノ退約罰金ヲ免

ルノ道ヲ設クルハ其退約事由ノ乙ムヲ

得サルニ出テタルヲ恕スルノ法ナリ是レ

本項第二段ノ規則ヲ立テタル所以ナリ此

法ハ各國其例ヲ見スト雖モ實際ニハ既ニ

此事ヲ契約上定ムルノ會社少ナシトセ

第三 船長契約ニ違ヒ發航ヲ止メ又ハ其他

船長ノ過失ニ因リ旅客其航行ヲ妨ケラレ

タル中ハ第九百六條但書及第九百八條
於ルカ如ク運送賃ヲ受クルノ權利ナキ
ミナラス若シ之カ為メ旅客ニ損害ヲ生シ
タルハ尚ホ之ヲ賠償スルノ義務アリ
高法第五百八十三條第三項
伯海上法第百二十九條

第四 船舶ニ係ル不得已事故又ハ不可抗力
ニ因リ航海妨止セラレタルハ船モ行ク
能ハス旅客モ行ク能ハス又船長ノ隨意ニ
出テス旅客ノ隨意ニ出テサルモノナレハ
互ニ損害賠償ナクシテ脱約スルノ外ニ道
ナシ是レ普通ノ原則ニシテ第九百十二條

ト照應ス(獨高法第六百七十條第六百七十
條伊高法第五百八十三條第四項伯海上法第
百五十一條荷蘭高法第五百二十五條)

第九百二十三條 發航後ニ航海ヲ廢止スル場

合ニ於テハ左ノ規定ニ從フ

第一 旅客カ航海中ニ解約ノ申込ヲ為シテ

航海ヲ止メタルハ運送賃ノ全額ヲ支拂

フテ得ス

第二 船長カ航海ノ續行ヲ拒ニ其他旅客ノ

航海ヲ止メタルハ自キ過失ノ責ヲ負フ

ハ旅客ハ既ニ支拂ヒタル運送賃ヲ取戻

スノ外尚ホ損害賠償ヲ請求スルヲ得

第三 旅客カ其一身又ハ船舶ニ係ル已ムヲ

得サル事故又ハ不可抗力ニ因リテ航海ヲ

妨ケラレタルハ既ニ航海シタル路程ニ

應スル運送賃ノミヲ支拂フノ義務アリ但
船長カ契約上ノ旅客ノ権利ヲ害スルヲ無
ク他ノ同様ナル船便ヲ以テ航海ヲ遂クル
トヲ申入レタルニ此限ニ在ラズ
海上災害其他ノ災害ノ為メニ死亡シタル
旅客ノ相續人ハ運送賃ヲ支拂フトヲ要セ
ス然レド既ニ支拂ヒタル運送賃ノ償還ヲ
請求スルトヲ得ス

本條ハ航海中ニ停ルノ一點アリテ前條ト幾
分ノ差ヲ自然ニ生セシムルモノアリ第一項
ハ第九百六條後段ト同シク運賃金額ヲ支拂
ヒ第二項ハ前條ノ第三項ニ同シ第三項ハ前

條ノ第二項ト第四項トヲ合併シテ同一ノ結
果ヲ成ス是レ航海前ト航海中トノ差アリテ
然リ酷ニ論スルハ旅客ノ一身ノ關係ヨリ生
スル航海廢止ノ場合ハ其未タ經過セサル路
程ニ應スル運送賃ノ四分一ヲ支拂フノ義務
ヲ生スルカ如シト雖モ是レ甚タ苛察ニ涉リ
途中ニ於テハ旅客ノ實ヲ設ケテ上陸スル
カ如キ弊モ少ナケレハ微細ニ涉ラサルヲ良
トス前條ノ場合ニ於テ運送賃ノ半額ヲ支拂
ハシムル伊法ニ於テモ本條ノ場合ハ本案ノ
如ク定メタリ伯法ハ固ヨリ然リ(伊高法第五
百八十四條第三項伯海上法第百三十七條後

段獨り獨逸ハ大ニ反シテ此場合ニ運賃ノ全額ヲ支拂フモノト定ム(獨商法第六百六十八條後段)蓋シ隨意ヲ以テ上陸シタルモノト同一徹ニ之ヲ論スルハ其理由ナキカ如シ本項但書ハ前條第二項ノ後段ト其權利者ヲ轉倒シタルノミ是レ事實ノ然ラシムル所ナリ本項中第二段ノ規定ハ第九百七十七條ト同シク不可抗力ニ因リ契約ノ物件ヲ失フタルキト同一ノ結果ヲ旅客ニ及ホシタルモノナリ然レニ貨物運送ハ後拂ヲ例トシ旅客運送ハ前拂ヲ例トスルノ差アルノミナラス此規則元來罹災者ノ相續人ヲ恕スルノ一點ヨリ

生シタルモノナレハ其前拂シタル運賃ヲ取戻スノ權利マテラ與フルハ過キタルニ似タリ然レニ其未タ經過セサル路程ニ應スル運賃ヲ取戻スノ權利アルハ勿論トス是法ハ獨リ伊國商法ニ載スル所ニシテ他國ニ其例ヲ見ス蓋シ豫メ法律ヲ以テ此點ニ存ル疑問ヲ一定スルハ其當ヲ得タリ(伊商法第五百八十四條第三項第二段)

前二條ハ船舶旅客ノ何レカ全ク航海ヲ止ム
ル場合ニ係ルハ倅ハ發航遲延ノ場合ニ係ル
モノニシテ其事由ノ何タルヲ論セス苟モ契
約上定マリタル時ニ發航セサルハ旅客ハ
船長ノ費用ヲ以テ旅寓ニ投シ仍船中ニ於ケ
ル賄ヲモ請求スルヲ得然レモ此賄ヲ請求
スルノ權利ハ第九百二十條ニ定メルカ如ク
運賃ニ賄ヲ含包スルハ存スルノモニシテ
特別契約又ハ慣習ニ依リ賄ヲ別ニスルハ
ハ存セス
發航ノ遲延ハ航海ノ廢止ト異ニシテ直ニ契
約解除ノ權利ヲ旅客ニ生スルヲナク唯々其

遲延甚タシクシテ航海廢止ト其結果ヲ一
スルカ如キ場合ニ限リ此權利ヲ生ス律法ニ
依レハ遲延十日ヲ過クルハ此權利ヲ生スト
雖モ(伊商法第五百八十五條)日ヲ以テ限ルハ
其當リ得ス既ニ第九百九條ニ於テ水條ト其
旨ヲ一ニスル規則ヲ定メタリ其航海ノ目的
ニ隨ヒ事實ニ照ラシテ宜シキヲ制スル自然
ノ慣習ヲ養成スルノ利アリトス

第九百二十五條 前條ノ場合ニ於テ船長カ契約上ノ旅客ノ權利ヲ害スルヲ無ク他ノ同様ナル船便ヲ以テ航海ヲ遂クルヲ申入レタルハ旅客ハ契約ヲ解除スルヲ得ス
本條ノ規定ハ既、第九百二十三條第三項ニ掲クル所ニシテ殊ニ遲延ノ場合ニ於テハ最モ便法トス

第九百二十六條 船長ハ旅客ノ安全、健康ニ注
意シ必要ノ食物、藥劑及ニ救助具ヲ供用ニ耐
ル景狀ニテ船中ニ備フルヲ要ス若シ災害ノ
生シタル時ハ船長ハ第一ニ旅客ヲ救助スルノ
義務アリ且如何ナル情況アルモ此救助ヲ實行
シタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルヲ得ス
船中ニ於テ死亡シタル旅客ノ埋葬ハ相續人ノ
費用若シ乙ムヲ得サレハ船舶ノ費用ヲ以テ慣
習ニ從ヒ船長之ヲ為スノ義務アリ
本條ハ特ニ旅客ニ對スル規則タリ之ニ埋葬
ノ規則ヲ加ヘテ前後具備ノ法ト為ル

第九百二十七條 旅客カ船中ニ積入ル、トテ
得ル行李及ヒ旅用具ノ運送ニ付テハ反對ノ契
約アルニ非サレハ旅客運送賃ノ外特別ノ報酬
ヲ支拂フテ要セズ

此規則ハ獨伊法ニ於テ齎シク掲クル所ニシ
テ獨高法第六百七十三條伊高法第五百八十
九條(手段)卸便船ニ實際用ユル習慣ヲ確定ス
ルモ、ナリ海上ノ運送ハ陸上ノ運送ト異ニ
シテ旅客ノ無賃ニテ載積スルトテ得ル荷物
ノ噸數甚々大ナリ特別ノ契約アルニ非サレ
ハ此噸數マテノ荷物ニ對シ特別ノ運賃ヲ支
拂フテ要セズ若夫レ通常ノ積荷トシテ載

積スル荷物ハ一般ノ貨物運送ノ規則ヲ以テ
論スヘキヲ自カラ明ナリ

第九百二十八條 船中ニ於テ死亡シタル旅客
ノ行李及ヒ旅用器具ニシテ船中ニ在ルモノハ船
長ニ於テ其相續人ノ為メ適當ノ方法ヲ以テ之
ヲ取扱フ可シ

是レ獨伯ノ法ヲ採リタルモノニシテ旅客死
亡シ其旅用荷物ヲ然ルヘキ法方ヲ以テ處分
シ相續人ノ利益ヲ量ルヲ船長ノ義務トス(獨
商法第六百七十六條伯海上法第百二十五條
此義務ハ船長ノ責任ヲ帶ヒサル荷物(第百
二十條第百二十一條)ニモ涉ルモノニシテ
船長ノ責任ヲ帶ヒル場合ハ無論トス

第九百二十九條 本章第一節第三節及二第一
編第八章第八節ノ原則ハ第五百二十三條前段
ノ規定ヲ除ク、外本節ノ旅客運送ニモ之ヲ適
用ス

本節ニ掲クルモノニ矛盾セサル限リハ貨物
運送ニ係ル規則(第二節ヲ除クノ外)ノ旅客ニ
適用ス例之ハ第八百八十九條乃至第八百九
十條及第九百十五條ノ如キ是ナリ又陸上ノ
旅客運送ニ係ル規則ニ此ニ適用スヘシ例之
ハ第五百十八條乃至第五百二十二條及第五
百二十三條後段ノ如キ是ナリ

第六章 海損

第九百三十條 共同海損ハ船舶及ヒ積荷ヲ共
同ノ危険ヨリ救助セシカ為メ故サラニ直接又
ハ間接ニ船舶又ハ積荷ニ加ハタル非常ノ喪失、
損害及ヒ同一ノ旨趣ニテ支出シタル非常ノ費
用タリ殊ニ左ニ掲クルモノハ共同海損ニ屬ス
第一 船舶及ヒ積荷ニ辱ル危険ヲ避ケ又ハ
其既ニ被リタル危険ノ有害ナル結果ヲ
避ケシカ為メニスル避難港ヘノ入航
第二 船舶ヲ輕クセシカ為メニスル積荷ノ
投棄又ハ陸揚及ヒ此ニ因リテ船舶又ハ積
荷ニ加ハタル損害

第三 沈没又ハ掠奪ヲ避ケンカ為メニスル
任意ノ坐礁膠沙

第四 船舶又ハ積荷ノ贖戻ノ費用及ヒ人質
ニ取ラレタル者アルカハ其贖戻ノ費用

第五 第八百七十二條ニ從ヒテ共同海損ヲ
償フ為メニ借入レタル金額ノ利息若クハ

冒險料又ハ賣却シタル積荷ノ損失其他共
同海損ノ調査及ヒ計算ノ費用

前第五^章ハ航海上ノ定常事件及事務ニ係ル
海上法第一部^{ノ結末ニシテ}以下第二部ハ航

海上ノ非常事件即チ變故及海上損害ニ係ル
此第二部ノ規則ハ如何ナル人如何ナル原則

ニ依テ海上損害ヲ負擔スヘキマヲ判スルモ
ノニシテ即チ之レヲ擔當スルノ人ハ概テ船

舶所有者若クハ積荷所有者若クハ契約上其
責ヲ負擔シタル人(冒險貸借債權者及保險者

ノ如シ)是レナリ故ニ以下ノ三章ハ自然ノ順
序ニ從ヒ海損、冒險貸借及保險ヲ論ス是レ大

體ニ於テハ佛國商法ノ例ニ倣フ唯タ該法
於テハ海損ヲ最後ニ置ク是レ其宜キニ適ハ

サルカ如シ何トナレハ船舶及積荷ノ所有者
自ラノ責ニ任スルノ場合ヲ最初ニ定ムルハ

論理上其當ヲ得タルニ似タレハナリ其他ノ
法律ニ至テハ或ハ一定ノ主義ヲ立サレナリ

法律ニ至テハ或ハ一定ノ主義ヲ立サレナリ

或ハ冒ニ航海ノ契約ヲ海上變故ノ上ニ置
クアリ此ノ如ク全ク外部ニ倅ル對照ハ其當
ヲ得ス且盡サ、ルモノアリ何トナレハ契約
ト變故トハ總テ海上法ノ他ノ部分ニ於テモ
論スハキモノナレハナリ又海損ヲ以テ保險
ノ一部ト見ルモノナリ何トナレハ船舶及積
荷ハ大抵保險セラレタルモノナルカ為メニ
海損ニ倅ル要求ハ大率保險者ニ對シテ之ヲ
為ス者ナレハナリ然レ氏是レ海損ヲ別途ニ
論スルノ妨害トナルニ非ス何トナレハ海損
ノ原則ハ保險アルト否トノ為メニ變スルナ
ナケレハナリ

海損ハ全船舶全積荷ニ涉ラサル海上損害即
チ其一部ニ倅ル損失ヲ指稱スル者ニシテ此
意ヤ既ニ其語ヲ以テ徵スハ、タ古日耳曼ノ「
半ノ義即チ半損害」或ハ羅馬語ノ「アウエ
ルシヲ」(避ノ義即チ海難ヲ避ル)ヨリ來ルト云
フ是ヲ以テ全ク喪失ニ或ハ海難ヲ避ル能ハ
サル片ハ海損ナシ此ニ結ノ問題ニ就テハ「
ルノルド」ノ海上保險第六冊第八百八十葉以
下ヲ參考スヘシ
佛國商法第三百九十七條ニハ海損ノ總旨ヲ
釋ス本按ニ於テハ之ヲ無要ト視タリ何トナ
レハ是レ其實用上ノ義解ヨリハ寧ロ學理上

ノ義解ニ傾キ抑エ普通眞理上ノ海損ナルニ
ノ存スルニ非ス唯タ共同海損ト單獨海損ト
ノ二種アルニ止マレハナリ又何トナレハ海
損ノ性質ハ此二者ノ義解ヨリシテ自ラ明白
ナルヘケレハナリ獨國高法ニ於テモ此ノ如
キ論理上ノ旨義ヲ掲ケス是ヲ以テ水按ハ直
ニ共同海損ノ規則ニ着手シタリ
往時ニ在テハ海損ニ許多ノ區別ヲ立テタリ
シニ(「バ」)「ド」第五冊第六百六十四號及
第六百六十五號)近今ノ法律ニ於テハ二種
或ハ三種ヲ存スルノニ水按ハ獨佛ノ法ニ倣
ヒ二種ト定ム英法ノ小海損(英國ニ於テ「ペ」

「エウ」レ「ゲ」ト稱ス)ナル者ハ航海費用中ニ
算スルヲ以テ其當ヲ得タリトス(第九百四十
一條)故ニ水按ニ於テハ共同海損(一般海損)大
海損トモ云フト單獨海損(特別海損)個々海損
トモ云フトノ二種ヲ掲ク
共同海損ノ義ニ屬スルモノハ左ノ如シ
第一 船舶或ハ積荷ノ一方ニ止マラス共ニ
兩者ニ迫ル危險ノ存スルト。故ニ船舶ノ底
荷或ハ船客ノニヲ以テ航行シ若クハ既ニ荷
物ヲ陸揚シタル内ハ共同海損アルノ理ナシ
然レモ右兩者ノ危險其程度ヲ同ラスルト否
ト其甚タ大ナルト否トハ之ヲ問ハス若夫レ

其損害甚々些少ナル時ハ第九百四十四條ニ照シ以テ單獨海損ニ屬スト雖モ是レ法律ニ定ムラレタル最下限ニ滿タサルニ限ル例ハ積荷火災ニ罹リ其消防ノ為メニ船壁ノ一部ヲ破ルハ是レ共同ノ危険タリ何トナレハ其火災全船ニ及フノ恐レアレハナリ而シテ荷物ノ損害ノ船舶ノ損害ヨリ大ナルハ海損タルニ妨ケナシ

現在發生シタル危険ト將ニ發生セントスル危険トハ之ヲ區別スヘシ其將ニ發生セントスル危険ヲ避ル為メニ為ス所ノモノハ海損ノ義ニ屬セス例ハ密霧ノ為メニ入港スル

如キ是レナリ危険ノ既ニ發生シタルヤ否ヤヲ判スルハ船長即チ船中會議ニ在リ以テ其判定ノ果シテ正當ナルヤ否ハ別ニ之ヲ論セヌ要スル所ハ獨リ危険アリト認ムルノ妥當ナルニ在リ然レバ船長ノ卑怯其犠牲ノ原由タルニ即チ船長ノ過失ニシテ被害者ニ對シ船長獨リ其責ニ任セサルヘカラスレウ井才第二冊第二十九條

第二船舶及積荷ニ係ル共同ノ危険ヲ避ケン為メニ任意ニ其船舶或ハ積荷ノ一部ヲ犠牲トスルナリ。此犠牲ヤ多少修繕ヲ要スルニ至ルヘキ船舶ノ毀損ナルアリ或ハ積荷ノ概

棄若クハ其價額ノ一部ヲ失フヘキ毀損ナル
アリ或ハ船舶ノ需用ノ為メニ負債ヲ起シ若
クハ之カ為メニ必要トスル金額ヲ得ント欲
シ積荷ノ一部ヲ賣却スル等ノ如キ金用ナル
トアリ總テ此ノ如キモノ皆故意ニ出テサル
ヘカラス外部ヨリ來ル乙ヲ得サルノ結果タ
ルヘカラス例ヘハ將ニ沈没セントスル船舶
ヲ坐礁セシメ檣ノ既ニ援クヘカラスナルノ
ヲ切り或ハ錨ノ拔ク可ラサルモノヲ放棄シ
或ハ船火ノ既ニ罹リタル荷梱ヲ海中ニ投シ
或ハ唧筒ヲ用ユル片荷物(鳥糞肥料ノ如キ)ノ
一物水ト共ニ流出スル等總テ此ノ如キ場合

ニ於テハ共同海損アルトナシ何トナレハ是
レ故意ニ出テタルト否トヲ問ハス其損失タ
ル人意ノ外ニ在ル原因ヨリ生シタルモノナ
レハナリ然レモ其損害ノ間接ニ生シタルカ
為メニ其故意ノ義ヲ失フニ非ス何トナレ
ハ損害ハ故意ノ救濟法ヨリ生スル最初ノ乙
ヲ得サル結果ニ止マラヌ間接ニ第二第三ノ
乙ヲ得サル結果ナルトアレハナリ例ヘハ荷
物ヲ海中ニ投センカ為メニ荷口ヲ開キタル
ニ海水流入シ他ノ荷物ニ損害ヲ加ヘタラン
歟海水ノ為メノ損害ハ間接ノ故意損害ニシ
テ失火ノ時延焼ヲ防カシ為メ故意ヲ以テ直

接ニ積荷ニ水ヲ注キ或ハ荷物ノ投棄ヲ速ニ
セシ為メ故意ヲ以テ船壁ヲ壞リタル内ト同
シク論ス然レ氏是レ其直接ノ損害ト間接ノ
損害トノ間ニ乙ヲ得サル因縁上ノ連繫アル
内ニ限ル故ニ其救済ノ行為ヲククトモ生スヘ
キ間接ノ損害ハ賠償スルコトナシ例ハ避難
港ニ入航スル際偶然ノ坐礁ノ為メニ蒙リタ
ル船舶ノ損害或ハ避難港ニ於テ荷卸ノ際ニ
受ケタル荷物ノ損害(海難ニ過ハサル船舶ニ
用ユル場合及方法ニ於テ陸揚シタル内ニ限
ル)ノ如キハ共同海損トスルヲ許サルナリ
ベダリード第五冊第六百七十四號

由是觀之共同海損ノ有無ハ必ス海上營業者
ノ鑑定ヲ以テ事實上ニ於テ諸般ノ事情ヲ判
シテ定マルモノナリ殊ニ重大ニシテ頻々生
スル問題(其一ニハ既ニ例トシテ前ニ掲ケタ
リ)ニ就テハ千八百七十七年アントウヘルペ
ン府ノ萬國公法改正及編纂會ナルモノニ於
テ其以前既ニグラスゴーロンドンブレメン
ニ於テ會議ヲ經タリ確定ノ原則即チ解釋凡
例ヲ立テタリ其問題ノ數ハ十二ニシテ是レ
眞個ノ法律タル性質ヲ有セスト雖モ航海及
保險會社ノ實用ニ依リ漸次近世ノ海上法上
ニ採用セラレタリ(高法雜誌第廿四冊第五百

一葉以下改ニ此例規ハ「ヨルク」アントウエル
ペ「リユール」ト稱シ万国普通海損法トナリ
之ヲ弁ルハ航海及商業ニ就テ關係ヲ有スル
諸國ノ利益タリ何トナレハ海損上ノ損害ヲ
處分スル時ニハ諸國人民ノ利害ヲ共ニスル
ト少シトセサレハナリ
任意ノ義中ニハ船長又ハ水先按内者等其船
船ノ指揮者ニ非サレハ救濟處分ヲ施スヘカ
ラサルトテ含有ス是ヲ以テ船員乘客等ノ擅
マニニ處置ヲ為ス「禁」而シテ其處置ヲ
施ス前ニハ可及的第九百三十一條ニ從ヒ船
中會議ヲ開キ其會議ノ結果ハ之ヲ航海日記

ニ登錄セサルハカラヌ佛國商法第四百條ニ
ハ理由ヲ盡シタル會議ノ後トノ明文ヲ以テ
百場合ニ右規則ヲ用フヘキトス然レハ
解釋シテ其事情ニ於テ急遽ノ處置ヲ要シ商
議ニ付スルノ暇ナキ時ハ豫メ會議ヲ行ナフ
ヲ須ヒサルモ「ト」ス「バ」第「五」冊「第」十
六百六十八號獨國商法第四百八十五條ニハ
船中會議ノ開否ヲ一ニ船長ノ意見ニ任ス然
レハ船長ハ妄ニ海上商業ニ辱ル慣習ヲ犯ス
能ハズ此慣習ニ依レハ重大ノ場合ニ於テハ
會議ヲ開クヲ以テ義務トスルモノナリ
第三 其犧牲ハ重ニ故意ヲ以テ用ユルニ止

マラス併セラ一定ノ目的即チ船舶及積荷
係ル共同危険ヲ救フ為メニ用ユルト。今又
積荷ノミヲ救ハシ為メニ船舶ヲ犠牲トシ船
舶ノミヲ救ハシ為メニ積荷ノミヲ犠牲トセ
シ歟是レ共同海損ニ非スシテ單獨海損ナリ
單獨海損ニ在ラハ他人ノ為ニ支費スルトニ
係ル普通原則(第百九十四條)ニ從ヒ要償ヲ為スヲ得ハ
キナリ(佛國商法第四百二條)レウ井ス第二冊
第三十一葉是ヲ以テ乘客ノ生命ヲ救フノミ
ノ目的ニ出テタル處置ハ共同海損ニ非ラス
其積荷ノ一部ヲ救ハシ為メ他ノ一部ヲ拋棄

又ハ陸揚スル亦タ然リ

第四 其犠牲非常ナルヘキト。是レ前ノ說

明ニ依リテ自ラ明ニシテ諸國ノ法律ニモ是

認ムル所ナリ(佛國商法第三百九十七條)白國

千八百七十九年ノ商法第九十九條)伊國商法

第五百六條)是ヲ以テ總ラ避ク可ラサル即チ

定常必ス發生スヘキ變動ノ為メニ生シタル

航海費用ハ共同海損ノ限ニテラヌ例ハハ逆

風ノ為メニ航海ノ遲緩シタルヨリ生スル費

用ノ如キ又假令ニ故意ニ出ルモ共同危険ヲ

避ケントノ意ニ非スシテ入航シタル港ノ租

稅等是レナリ(バタヴィヤ第五冊第六百五

十八號及本案第八百九十一條

諸國法律ニモ皆共同海損ノ凡例ヲ列擧ス然

レ其制限的ニ於テモ(佛國商法第四百條伊

國商法第五百九條白國千八百七十九年商

法第百三條獨國商法第七百八條)殊ニ白國法

ハ此點ニ就テ唯々將來疑問ノ生スヘキ或ハ

從來疑問アリシ場合ヲ列擧スルノ目的ニ出

ツ本按ハ其素ヨリ明白ニシテ嘗テ疑惑ヲ生

シタルトナキ場合ハ之ヲ殊ニ擧ケス明確概

覽ヲ得セシメシト爲メニ白國法ニ於ルカ如キ

僅々ノ場合ヲ擧テ止マラス本條ニ掲

ル場合ハ素ヨリ例トシテ視ルヘキモノニシ

テ他ノ場合ト雖モ本條ニ照シ共同海損ノ義

中ニ屬スルモノハ此ニ算ス是レ佛國商法第

四百條ノ末尾ニ明言スル所ナリト雖モ贅言

ニ過キス

各項ニ就テハ唯々左ノ説明ヲ加フヘキノミ

第一項ニ掲ル例ハ通常ノ暴風雨又ハ掠奪ヲ

避ケン爲メ避難港ニ逃入スルニ在リ且暴風

雨或ハ敵若クハ海賊トノ戦争或ハ衝突等ノ

爲メニ船舶損害ヲ蒙ル海上ニ用ユ可ラサ

ルニ至リタル後必要ノ修繕ヲ加ヘン爲メニ

然ルモノ亦同シ而シテ此入港ノ爲メニ生シ

タル費用ハ共同海損ヲ以テ論スヘキ者ニシ

△
 獨り税金水先按内賃、稅船賃等、如キ入航
 ノ費用、止マラズ其出航ノ費用ハ勿論其修
 繕ノ費用ト雖モ其修繕スヘキ損害既ニ共同
 海損ナル中ハ亦々此ニ屬ス其他荷揚、再荷積
 ノ費用ニシテ修繕等ノ為メニ必要ナル者及
 再ニ出航スルマテノ船長船員ノ給料給養費
 ノ如キ亦々之ニ算入ス此船長船員ノ給料云
 々ニ就テハ第九百十條ニ論シタリ而シテ右
 ノ原則ハ亦「ヨルクア」ントウエルベシ「リエー
 ル」第七項第八項ニモ是認スル所ナリ「佛國高
 法」第四百條第六項第七項獨國高法第七百八
 條第四項白國千八百七十九年ノ高法第三百三

條佛國法ハ其運送契約ノ月日ヲ限ルト一全
 航海ニ係ルトニ從ヒ區別ヲ立テ獨リ前者ノ
 場合ニ於テ共同海損トスルヲ許シ後者ノ場
 合ニハ單獨海損ト為ス是レ同國法律學ニ於
 テモ痛ク駁スル所ニシテ「アボット」第五百十
 八葉ニ云フカ如ク實ニ充分ナル理由アルヲ
 見ス何トナレハ一航海ノ運送契約ニ於テハ
 船長全ク航海ノ費用ヲ擔當スルモノナリト
 雖モ是レ唯々航海ノ費用ヲ指ス者ニシテ共
 同海損ノ原則ニ據リ共擔スヘキ非常ノ損害
 ニ係ルニ非サレハナリ且一航海ノ契約ニ在
 リテ他ノ海損ヲ獨リ船長ニ負擔セシメサ

ルハ何ノ理由ニ出ルヤ是レ亦見ルヘカ
ルナリ(バダリード第五冊第千七百十號)英國
ニ於テ往時ハ石等ノ費用多クハ共同海損ヲ
以テ論セサリシナリ何トナレハ故意ニ出ル
犠牲タル性質乏シキノ觀ヲ呈シタレハナリ
然レ凡是危虞ハ間接費用ノ義ヲ以テ排除ス
ルニ足レリ故ニ同國ニ於テモ現今ハ大陸諸
邦及米國ノ法制ニ倣ハントスル傾向アルカ
如キ「アボット」第五百八葉以下ニ論スルカ
如シ蓋シ右ノ背馳ハ救助ト利益トノ反對ナ
ル意義ヲ持スルノ過甚ナルニ基クモニシ
テ乃チ以謂ラク救助其功ヲ奏シ船舶無事ニ

避難港ニ入りタルハ危険ヲ避クル為メノ
共同犠牲其必要ヲ失フカ如キノ觀アリ且
共同利益ヲケレハ共同費用ナシト(コムモン
セフチー、コムモン、ベチー、イトノ原則)然リト
雖モ船舶ニシテ修繕ヲ經スハ災ニ渡航ス
ルヲ能ハサルニ於テハ其修繕タル海上危険
ノ餘響即チ伴隨ナリ其結果ヲ共擔スヘキハ
其發端ニ於ルカ如クナルヘシ
避難港ニ入ルモ共同海損ニ原因スルニ非レ
ハ其費用亦チ共同海損ニ算ス可ラサルヤ明
白ナリ
第二項ニハ佛國商法第四百條第二項第七項獨

國商法第七百八條第一項第二項「ヨル」
トウエールペン「リ」ユル「第」二項、モ掲クル所
シテ柁網、錨等ヲ放棄スル「亦」此「屬」ト荷卸
ヲ以テ船脚ヲ輕クシタルノ場合ニハ其失費
ハ先第一ニ荷卸ト積込トニ係ル然レモ荷物
ノ損失ヲモ算入ス放棄シタル貨物ハ再ニ救
濟(潮水ノ貨物ヲ陸地ニ漂着シタル如キ船員
等ノ後々ニ之ヲ拾ヒ得タル如キ即チ其例ナ
リ)シ得タルニ非サレハ充分之ヲ償十ハサル
ヘカラス

第三項ノ場合、佛國商法第四百條第八項獨
國商法第七百八條第三項「ヨル」ク「ア」ントウエ

ルペン「リ」ユール「第」五項ニ掲ク「ア」ボツト「第」百
一葉及第五百七葉「バ」タリ「第」五冊「第」千七
百十四號以下此ニ屬スルモノハ坐礁ヨリ卸
ス費用之カ為メニ放棄シタル貨物ノ價額荷
物ノ積卸費用船体ノ毀損是レナリ若夫レ坐
礁ヨリ卸ス「片」ニ船舶沈没シタル「片」ハ共同海
損ノ場合タルヲ「夫」チ「第」九百三十二條

第四項ノ場合、佛國商法第三百三條及第三
百四條獨國商法第七百八條第六項ニ掲ク「ハ」
外「リ」ト「第」二冊「第」八百四號「ア」ボツト「第」五百
五葉(贖戻ノ為メニ費ヤシタルモノ積荷ノ一
部ナルト若干ノ金高ナルトハ之ヲ問ハス

第五項、場合ハ獨國商法第七百八條第七項
佛國商法第三百卅條ノ設ク(ベタリ)ト第五
冊第千七百十九號「アボット」第五百十六葉「
」ト第ニ冊第四十八葉是レ率子間接即チ
第二段ニ生シ來ル費用ニシテ本條ニ依リ共
擔中ニ屬ス

第九百三十一條 共同海損ノ處分ヲ行フニハ
船長ハ成ル可ク役員ト評議ヲ爲シ且其評議ノ
結果ヲ航海日記ニ記載ス可シ

本條ノ規則ハ既ニ前條ニ說明シタリ其目的
ハ無思慮無利益ノ處分ヲ行ヒ謂レナク船舶
或ハ積荷ヲ犧牲トスルヲ防クニ在リ然レ
ル船長ハ船舶ニ於ケル一人ノ指揮者ニシテ
必スシテ船中會議ノ議決ニ拘束セラル、
ナシ但タ其會議ハ百事情ヲ廣ク熟慮スル
ニ注意セシメ且船長ヲシテ至當ノ理由ナク
其議決ニ背馳スルヲナカウシムルモノナリ

第九百三十二條 船舶及積荷ノ全部又ハ一分ヲ救助スルトシテ得タル積荷ト船舶及積送賃ノ半分トカ到達港其他航海ノ終極地ニ於ケル其價額ノ平等ナル割合ヲ以テ共同海損ヲ共擔ス

本條ノ原則ハ己ニ羅馬海上法ニ明記スル所ニシテ(羅馬法律集第十四編第二章「ロガヤ」法第五節總論及第七節)獨國商法第七百五條ニ之ヲ揭ク英國法律學上ニ於テハ此點ニ就テ一定ノ說ナシ(アボット第五百一葉)然レモ此原則ノ既ニ古法ニ於テ用ヒラレタルヲ是認ス佛國商法(第四百廿三條)及其他之ニ模シ

タル諸國ノ法律ハ唯々船舶ノ損失ニ其言ヲ
及ホシ積荷ニ及ホサス今之レヲ推究スレハ
全積荷ヲ犠牲トシテ船舶ヲ助ケタル場合ニ
共擔セシムルモノトスルカ如シ是レ「バダリ
」^ド第五冊第千八百九十七號「アロ」セ「」第
六冊第二千三百三十七號ニ記スルノ説ニシ
テ該法第四百條及第四百十條ノ規則ニ反對
ス第四百條ニ依レハ唯々船舶ヲ救助セシム
ル積荷ヲ犠牲ニ供スルキハ共同海損トセズ
何トナレハ共同救助ノ目的「サ」リ「エ」ト「コ」ン
ム「ユ」ン「ケ」ユ「ナ」ウ「井」ール「エ」ド「マ」ル「シ」ヤ「ン」ケ「ー」
スレハ之ニ依リテ違スルニ非ス又違スルヲ欲

セサレハナリ又其第四百十條ニ依レハ積荷
ノ一部ヲ犠牲トスルキニ限ルモノニシテ其
全部ヲ犠牲トスルキハ然ラス故ニ第四百二
十三條ハ船舶ト共ニ積荷ノ一部ヲ救助シ
タルキニ限ルモノト解セサル可ラズ本條ノ
規則ハ共同海損ノ性質然ラシムル所ヨリ生
ズルニシテ若シ船舶全失シタルキハ事已ニ
終リ猶ホ救助スヘキモノアラハ之ヲ救助シ
各人自カラ其處置ヲ為スヘシトノ原則ニ循
フヘシ既ニ此ノ如クナルキハ二三ノ荷物若
クハ破船等ヲ救助シタルモ既ニ配當ノ限ニ
アラス故ニ其救助シタル荷物ト拋棄シタル

荷物トノ間ニモ然リ(佛國商法第百三十三條)又積荷ヲ全失シ船舶ヲ救助シタル
其ハ一部ノ損失ヲ以テ他ノ一部ヲ救ヒタル
モノニシテ一部ノ損失ヲ以テ全部ヲ救ヒタル
ルニハ非ラス此ニ損失ヲ共擔セサルハ其正
ヲ得サルカ如シト雖モ是レ外觀ニ止マル何
トナレハ積荷亦タ船舶ト與ニ損失ニ歸スル
ヤ期スヘケレハナリ然レモ此場合ニテ民法
ノ原則ニ由リ損害賠償ヲ要求スルヲ得ルハ
前ニ論シタルカ如シ又積荷ノ船舶ニ比シテ
其價貴キカ為ノ等ニ依リ船舶ヲ犠牲トシテ
積荷ヲ救助シタルハ佛國民法第百三十七

十五條ニ依リ船長ハ荷主ヲ有利的ニ代理シ
タルノ故ヲ以テ其犠牲(有益ナル費用)ヲ
船ノ賠償ヲ要求スルヲ得ヘシ之ニ反シ船舶
ヲ救ハシ為メ積荷ヲ失ナフタルニ於テハ船
船ノ為メ積荷ヲ賣却シタル場合ニ準シテ
之ヲ論シ其積荷ノ價額ヲ賠償セサルハカラ
サルナリ(第百七十二條)然レモ右ノ場合ト
モ抑モ船舶或ハ積荷ノ全失セサリシモ限
ル然ラサレハ故意ノ犠牲ト云フハカラス
佛國商法第百三十三條ニハ船舶ノ積
荷ノニニ於ル費用及損害ハ單獨海損ニ屬ス
ハキナリ明言ス

是：於テ船舶或ハ積荷ノ全失ハ共同海損ニ
係ル要求ヲ防止ス而シテ船舶航海ニ堪エス
廢物ニ歸シタル成ハ再ニ海底ヨリ引揚ケ得
ルモ船舶ノ全失ト同視ス(獨國商法第七百八
條第三項佛國商法第四百二十三條及第四百
二十三條)積荷：於ルモ其理右ニ同シク全ク
破損シ廢物ト為リタル成ハ全失ト看做スヘ
キナリ

共同海損ノ原則ハ危險ヲ免ル、為メノ共同
損害ヲ共同シテ(即チ皆ナ同割合ヲ以テ)擔當
スルニ在リ之カ為メニハ一方ニハ損害一方
ニハ共擔義務ニ充ツヘキ物品ノ全價額ヲ評

定シ同一ノ割合ニ其損害ヲ古物品ニ課スハ
キナリ例ハハ損害四千弗ニシテ共擔物品ノ
總價額八万弗ナリトセシ歟此八萬弗ヲ以テ
彼ノ四千弗ヲ辨償セサルヘカラサルカ如シ
其共擔物品ハ船舶及運賃ノ半額ト積荷ノ純
價トニシテ例ハハ船舶ノ半價ヲ五万九千弗
運賃ノ半額ヲ一千弗トシ積荷ノ價額ヲ二万
弗トセシ歟其損害ノ割合ハ船舶ヨリ二千九
百五十弗運賃ヨリ五十弗積荷ヨリ一千弗合
シテ即チ四千弗トナル而シテ其損害額ハ共
擔義務總價額ノ二十分一ナルヲ以テ船舶運
送賃及積荷ノ所有者ハ各其有スル價額ノ二

十分一ヲ負擔スハキモノトス例ハ其放棄
シタル四千弗ノ積荷唯々一人ニ歸シタルニ
ハ其賠償トシテ三千八百弗ヲ得ハシ何ト十
レハ餘ノ二百弗ハ其共擔ノ部分ナレハナリ
本案ニ定シル價額評定ノ方法ハ佛國高法第
四百一條及第四百十七條ニ揭クル所ニシテ
其荷物ノ價額ニ到達地ニ於ケル純價即チ運
賃關稅其他ノ諸稅及之ニ課セシル、單獨海
損費ヲ扣除シタル價額ニ和蘭高法第七百
二十一條及第七百二十八條獨國高法第七百
二十條及第七百廿一條白國千八百七十九年
ノ高法第七百七條ニベダリト第五冊第千八百

四十四號今ヤ貨物ハ救濟セラレタルト放棄
セラレタルトヲ問ハス共擔義務ニ充ツヘキ
ト論ヲ須タス何トナレハ各關係者ハ皆チ共
擔ノ義務アルトカ為リト其貨物ヲ放棄セラレ
タル者亦然レハナリ是ヲ以テ海損ノ價額モ
必ス共擔價額中ニ包含セサルヘカラサルナ
リ然レ氏共擔ニ當ル貨物ハ其航海ノ初ヨリ
積込ニタルト中途ニテ積込ニタルトヲ問ハ
ズ海損ノ時仍キ船中ニ在存スルモノニ限ル
是ヲ以テ先キニ己ニ陸揚或ハ放棄シタルモ
ノハ其共擔ヲ免ル、モノナリトバダリト第
五冊第千八百四十四號其共擔スヘキ價額ハ純

價(總價ノ反對)タルヘシ何トナレハ運賃税金
海損等ノ如キ其貨物ヨリ支拂フヘキ費用ハ
所有者ノ為メ一モ價額タルノ知ナク唯後
日ノ賣價ニ加ハリ其所有者一モ之ニ就テ利
益ヲ得ルトナケレハナリ例ヘハ貨物ノ純價
一千弗ニテ輸入ノ諸費トシテ其一割ヲ支拂
フヘシトセシ歟其市價ハ即チ一千百弗トナ
ル何トナレハ百弗ノ費用ハ賣主(即チ所有者)
立替ヘ後チ辨償(買主ヨリ)セラルレハナリ然
レ其所有者ハ此貨物ニ就テ千弗ノ賣價ヲ
有スルノミシテ獨リ此賣價ヲ以テ共擔義
務ニ當ルハキノミ尚ホ此原則ハ第九百三十

七條ニ於テ殊ニ適用スル所アリ
本案ニ依レハ佛法ニ於ルカ如ク唯タ船舶及
運賃ノ半額ヲ以テ共擔義務ニ當ルモノトス
蓋本條ノ船舶ト運賃トヲ併セテ其純價ヲ
以テ共擔ノ責ニ當ルヘシ然レ此ニ扣除ス
ヘキノ費用甚タ算定シ難キニ止マラス其新
故ニ依テ差アルカ故ニ純價ト總價トノ反對
ヲ須ヒサラシムル所ノ法律上ノ例規ヲ立ツ
ルヲ以テ便宜トス第九百十三條ノ說明而シ
テ此計算ニ於テモ海損ノ為メ被ムリタル
損害ヲ併セテ船舶ノ價額ヲ算シ海損ノ為メ
ニ減シタル運送賃ヲ加ヘテ運送賃ヲ算スヘ

キハ論ヲ待タサルナリ獨國商法第七百十九條第七百二十三條然レモ未收ノ運送債ノミ算入スハキモシテ其支拂ヲ終リタル運送債即チ海損前ニ積卸タル貨物ニ係ルモノハ然ラサルナリ

外國ノ法律ハ右ト異同アリ獨國商法第七百十八條以下自國千八百七十九年ノ商法第一百四條以下和蘭商法第七百二十七條以下西國商法第九百五十三條以下「アボツト」第五百二十七葉以下且互ニ一定セズ佛國商法ノ規則ハ簡明ニシテ其宜ヲ得タリ「バ」ダリ「ド」第五冊第七百二十二號乃至第七百二十四號

及第千八百五十號乃至第千八百五十二號

第九百三十三條 共同海損ノ場合カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルハ其過失ノ責任ハ共擔ノ為メニ消滅セズ

本條ハ賃借人若クハ船員等ノ過失ニ因テ船火起リ或ハ其船舶出航スルハ既ニ航海不能カトナリ或ハ船長航海中其職務ヲ盡サレ等總テ其損害偶然或ハ抗拒ス可ラサル威力ニ起因セサルキニ係ル者ニシテ此ノ如キ場合ニ於テモ共擔ハ之ヲ行テ其損害ヲ起シタル者而已ニ其責ヲ止メスト雖モ此者到底其損害ノ責ニ當リ其共擔セシメラレタル者ハ皆之ニ對シ賠償ヲ要求スルヲ得ヘシ而シ

テ其損害ヲ起シタル者ハ自ラ賠償ヲ要求ス
ル能ハサルヲ論ヲ俟ス何トナレハ終ニ再ニ
之ヲ償還セサルヲ得サレハナリ獨國商法第
七百四條和蘭商法第七百三十七條「ベダリ
」第五冊第六百五十九號和蘭商法第七百
條ニハ乗組員ノ過失ニ出テタルハ共同海
損ト視ス然レニ各關係者ノ賠償要求ニ獨リ
船長即チ船舶所有者ヲシテ當ラシムルハ權
宜ヲ得サルカ如シ

第九百三十四條 共同海損ノ確定及ニ割賦ハ
列達港其他航海ノ終極地ニ於テ鑑定人之ヲ為
シ若シ鑑定人ノ選定ニ付キ争アルハ官ヨリ
之ヲ任ス

本條ノ規則ハ諸國法律皆掲クル所ニシテ共
同海損ニ係ル百種ノ價額ハ其經驗アル鑑定
人ニ非サレハ之ヲ算定スル能ハス且其額甚
タ大ナルカ為メニ特ニ其算定確實ナルヲ要
スルヨリ出テタルキナリ殊ニ船價ヲ定ム
ルニハ必ス海上營業者ノ見識ト經驗トヲ要
ス佛國商法第四百十四條及第四百十六條獨
國商法第七百一十一條和蘭商法第七百二十四

條白國千八百七十九年、高法第百十八條及
第百十九條

第九百三十五條 船舶ノ武具食料乗組員ノ給

料所持品及ニ旅客ノ旅荷物ハ共同海損ヲ共擔

セス然レ其喪失又ハ損害ノ場合ニ在テハ他

ノ共擔義務アル物ヨリ其賠償ヲ受ク

物品ニ依リ共擔義務ノ例外ニ之ヲ居クハ諸

國法律皆同シ但々佛國高法ハ第三百四條及

第四百十九條ニ旅客ノ旅荷物ヲ擧ケス(獨國

高法第七百二十五條白國千八百七十九年ノ

高法第百六條和蘭高法第七百三十一條西國

高法第九百五十八條及第九百五十九條アホ

ツト第五百二十七條ト雖モ習慣ニ依テ共擔

義務ヲ免ルモノトス(バカリト第五冊第

千八百六十三號今マ本條ノ如キ例外ヲ居ク
ハ該品ノ航海ノ為メ及船舶需用ノ為メ缺ク
可ラサルモノナレハナリ而シテ是レ旅荷物
ニ就テモ其大要然ラサルナク他ノ高品ト大
ニ異ナリ若シ其必要ト不必要トヲ區別セシ
ト欲セハ各人ノ身上ニ干涉セサルヲ得ス是
法律ト風俗トニ戾ルモノナリ

第九百三十六條 喪失損害及ニ共擔額ノ計算
ハ棄却シタル物及ニ救助シタル物ノ實價ニ從
ヒテ之ヲ為ス然レモ棄却シタル物ニ付テハ其
實價カ船荷證書ニ記載シタル價額ヨリ高價ナ
リシト雖モ其記載ノ價額ノミヲ賠償ス
船荷證書其他ノ明告書ナクシテ積込ニタル貨
物及ニ甲板上ニ積込ニタル貨物ニ付テハ賠償
ヲ為スナシ但甲板上ニ積込ニタル貨物ニ付
テハ沿岸小航海ノ船舶ニ非サルモニ限ル
前項ノ場合ニ於テ救助シタル貨物ハ共擔義務
ヲ免カル、ナラ得ス
本來ハ棄却或ハ救得シタル物件ノ實價(其物

件ニ係ル費用ヲ扣除シタルモノヲ以テ標準
トセサルヘカラス何トナレハ其實ニ失ヒ或
ハ救得シタルモノハ其實價ニ止マレハナリ
（前ルレアル）トウエルベシ（エール第十項及
第十二項）故ニ船荷証書商品勘定書（~~勘定書~~）
及其他ノ添書ニ於テ代價ヲ記シタルモノハ先
ツ之ヲ一覽スルモノナリト雖モ若シ其實價
ト異ナルモノハ其記載ノ價額ニ依ラズ其實價
ニ從フヘシ而シテ其全失ノ場合ニ於テハ其
全價ヲ償ヒ損害ノ場合ニ於テハ其全價ト殘
存スル價格トノ間ノ差額ヲ償フヘシ（獨國商
法第七百十三條第七百十四條）若シ其船荷証

書ニ記載ノ價格ニシテ不當ナルモノハ其實價
ヲ評定シ計算ノ水ト為スヘシ（佛國商法第四
百十八條白國千八百七十九年ノ商法第百八
條西國商法第九百五十七條和蘭商法第七百
三十條）此常例ニ就テハ獨り棄却シタル貨物
ニ於テ例外ヲ立ツ今ヤ棄却シタル貨物ノ價
額ハ細ニ調査スルヲ能ハサルカ故ニ其記載
シタル價額ニ依リ算定スヘシ然レモ是レ其
實價ノ記載價額ヨリ貴キモノニ限ルモノニシ
テ之カ為メニ貸借人ノ損失ヲ受ルハ其記載
ヲ詐リタルノ罰ナリ若シ其實價卑シテ記載
ノ價額ヨリ低キモノハ其實價ヲ以テ辨償スヘ

シ何トナレハ虚偽ノ記載ヲ以テ利益ヲ得ル
ハ新サ、ル所ナレハナリ即チ喪失シタル貨
物ニ在テハ記載ノ價額ニ對シ低價ノ證據ヲ
擧ルヲ得ルモ高價ノ證據ヲ擧ルヲ得サルナ
リ佛國商法第四百十八條第三項及其他ノ法
律例ハハ白國千八百七十九年ノ商法第百八
條ノ如キハ救得シタル貨物ノ共擔義務ハ其
記載ノ價額實價ヨリ高キキト雖モ其記載ノ
價額ニ據ルヘキ者トス是レ虚偽ノ記載ヲ罰
スルノ嚴其度ニ過キタルモノト云ヘシ何ト
ナレハ其貨物ノ實價甚タ小ニシテ其配分シ
タル共擔金ニ充ルニ足ラズ且實ニ惡意アル

ニ非スシテ價值變動ノ為メニ貨物ニ損失ヲ
加フルトアレハナリ故ニ本案ニハ債借人又
ハ荷受取人ヲシテ其共擔義務アル貨物・就
テ記載價額ニ非サル實價ニ依ルヘキヲ要
スルヲ得セシメタリ
本條第二項^{ノ註}諸國ノ法律ニ揭ク佛國商法
第四百二十條及第四百二十一條白國千八百
七十九年ノ商法第百九條和蘭商法第百三
十二條及第七百三十三條獨國商法第七百十
條西國商法第九百四十八條及第九百五十條
其理由他ナシ本文ノ如キ積荷ハ法律ニ反シ
且危險ナレハ是ヨリシテ權利ヲ生セシムル

下ヲ得サレハナリ殊ニ其目錄ナキモノハ正
當ニ證明スルノ道ナキカ故ニ然ラサルヲ得
サルナリ獨法ハ此規則ヲ相當ノ目錄ナキ貴
重品、金員、有價證券ニモ適用ス然レモ之ヲ通
用スルニハ甚々汎ク及ホスヘカラサルナリ
又沿岸ノ小航海ニ用エル船舶ニ在テハ甲板
上ニ貨物ヲ積込ムヲ正當トシ之ニ依リテ運
送貨ヲ受ケ又乗客ニ公許シテ甲板上ニ荷物
ヲ居カシムルモノナレハ之ヲ以テ法律ニ戾
ル危険ノ處置ト断定スル下ヲ得ス故ニ該船
船ニ付キテハ例外ヲ立テサルヲ得ス右ノ貨
物損失ノ代賠償ヲ受ケサルハ法律ニ反スル

ノ處置ニ依リ權利ヲ得ル能ハサルノ原則ニ
出ツルモノニシテ之ヲ共擔貨物中ヨリ別除
シ其義務ヲ併セテ免スルニ非ス是レ本條第
三項ノ規定アル所以ナリ

第九百三十七條 救助セラレタル船舶又ハ積荷カ其後喪失シ若クハ毀損シタル者又ハ海損若クハ救助ニ係ル債權ノ為メ責ヲ負ヒタル者共擔義務ノ全ク消滅セサルニ於テハ其共擔義務ノ割合ハ初ノ海損ニ對シテ變更ヲ生スルヲ無シ然レモ其共擔義務ハ後ニ生シタル喪失若クハ毀損ヲ扣除シ又ハ海損若クハ救助ニ係ル債權ヲ扣除シタル殘價額ニ從ヒテ之ヲ定ム本條ハ共擔義務アル物件ノ價額ヲ定ムルニ列達地ノ價格ヲ以テスヘシトスル第九百三十二條ト船舶ニ係ル後ノ債權ハ先ノ債權ノ上ニ在リ何トナレハ後ノ債權ヲ生シタルノ

効驗十ヶレハ其物件救得スルヲ得ス之カ為
マニ其債權ヲ實行スヘキ物件抑モ無ケレハ
ナリトノ前記ノ原則トヨリ生シタリ今夫レ
海損ノ處分ノ為ニ其船舶及積荷ヲ救助シ
タルキハ其救得シタル物件ハ棄却シタル物
件ノ損失ヲ共擔セサルヘカラス此損失ヲ共
擔セシムルノ權利ハ假令ニ其海損ノ算定ト
支拂ハ後日之レヲ行ナフモ他ノ物件ニ對シ
其救得セラレタルキヨリ何レノ物件ニ就テ
モ生スルモノナリ然レ氏其航海中更ニ數回
變故ニ遭遇シタラシムル歟舊損失ノ對ニ新損失
加ハル今此ノ如ク時ヲ異ニシテ生シタル損

失ヲ配分スルニ如何ナル原則ヲ用ユキヤ
ノ問題ヲ生ス其答マ後ノ海損皆先ノ海損ト
同一ニ之ヲ論スト雖モ後者ハ前者ノ上ニ在
リト云フニ在リ蓋シ共同海損ニ非ス單獨海
損或ハ其他ノ損害ニ俸ル時モ之カ為ニ生
シタル債權或ハ損害ノ為ニ同シク價額ノ
損失ヲ生シ其最初ノ海損モ唯其殘ル所ノ價
額ニ應シテ之ヲ譯ス若シ其殘ル所ナキハ
固ヨリ毫モ算酌スル所ナシ第九百三十二條
ノ説明ニ掲ケタル例ニ依リ最初ノ海損ニ於
テ船舶ノ共擔金ハ二千九百五十弗運送債ノ
共擔金ハ五十弗積荷ノ共擔金ハ千弗即チ合

シテ四千弗トナル今又再ニ船舶全失シ積荷
ハ悉ク救得セラレタリトセシ歟船舶ノ共擔
義務ハ消滅シ獨リ積荷及運送債ノ共擔義務
ヲ存ス然レモ積荷ニ併セテ損害ヲ被ムリ或
ハ其一部ヲ失シ之カ為メニ其價額ノ一半ヲ
減シタルモ其共擔額亦下リテ其半額五百
弗トナリ此運賃ニ於テモ亦然リ
右ノ原則ハ一航海ヲ以テ一全体ト為シ航海
ヲ終了シタルノ結果ヨリ法律上ノ結果ヲ產
出スルヨリ出ル所ニシテ且共擔義務アル物
件ニ共擔義務ヲ課スルニハ實ニ海難ヨリ救
得シタル價額ヲ以テシ到達地ニ於テ有スヘ

シトノ想像價額ヲ以テセサルハ權宜ノ然ラ
シムル所ニシテ各國ノ法律皆十然リ(佛國高
法第四百廿四條獨國高法第七百十五條第七
百廿四條及第七百廿六條白國千八百七十九
年ノ高法第七百十二條伊國高法第五百三十一
條和蘭高法第七百卅五條及第七百卅六條西
國高法第九百四十四條)
是ニ於テ猶ホ疑問ノ存スルハ此ノ如ク後ニ
生シタル負擔額ノ損失ハ辨償要求者ノ負擔
擔スヘキヤ將タ辨償義務者總員ニテ(即チ共
擔義務者ノ一二其負擔ヲ減シタルノ割合ニ
隨ヒ他ノ共擔義務者ノ負擔ヲ増ス)負擔スヘ

キヤト云フニ在リ此問題ニ諸國法律ハ勿論
本案亦^ナ前者ヲ是トス其後者ヲ是トスルハ
獨一獨國高法第七百二十六條ノ^ニ蓋シ前者
ハ後者ヨリ其當ヲ得且實用ニ適スルカ如シ
何トナレハ一タニ共擔割合ノ額ニ於テ得タ
ルノ權利ハ後之ヲ奪フ可ラス且後ノ一人ノ
損害ヲ他人ニ負擔セシムルヲ得サレハナリ
加之共擔義務アル物件後ニ至テ悉皆損害ヲ
蒙ムルトナシトセズ此場合ニ於テ個人ノ
損失ヲ更ニ他ノ諸人ニ分擔セシムルハ^非無理
ト云フヘシ故ニ共擔義務アル物件ノ後ノ損
失ハ唯々其辨償要求者之ヲ負擔スヘシ何ト

ナレハ其債權ハ全ク其物件ノ救得ヨリ生ス
レハナリ之ヲ要スルニ物件ノ損失ハ債權ヲ
防止スル^モナリ^ハ第五冊第千八百八
十七號乃至第千八百八十九號

第九百三十八條 棄却シタル貨物ハ其後ニ生
シタル海損ノ場合ニ在ラハ共擔義務ヲ負擔セ
ヌ又船舶ニ對スル積荷ノ共擔義務ハ船舶カ後
ニ喪失シ又ハ使用ニ耐ヘサルニ至リタル内ハ
消滅ス

前條ハ後ニ生シタル損失ノ為メニ共擔義務
ノ消滅又ハ減殺スル一ニ俾ル本條ハ共擔義
務ナク或ハ再ニ此義務ナキ場合ヲ論ス是レ
再ニ海損ヲ生シタル内ニ俾ルト雖モ其關ス
ル物件ハ異ナリ凡ソ海損ノ共擔義務アルハ
其時現存スル貨物ニ限り其既ニ犠牲トナリ
タルモノハ然ラズ何トナレハ是レ後ノ海損